

授業科目名		解剖生理学	担当教員	小林圭一
対象学生		1 学年	学期	通年
単位(コマ数)		2 単位(30コマ)	必修	講義室
回	講義題目	教科内容		国家試験出題基準
1	人体の組織	組織とその分類		必修問題3
2	運動器	骨総論、関節など		1生命活動-A.人体の構造と機能
3		全身の骨		e 循環器, f 呼吸器, h 消化器,
4		筋総論		i 泌尿器, k 骨・筋, l 性と生殖
5		全身の筋		人体の構造と機能
6	脈管系	心臓 主な動脈		目標 1.2
7		主な動静脈		1 生命- E.人体をおおう皮膚と膜
8	予備			a 皮膚の構造と機能, b 漿膜・粘膜
9	消化器系	口～胃		4 循環系-A. 心臓 a 心臓と心筋の構造,
10		小腸～大腸		b 心臓の機能, c 刺激伝導系 C.リンパ系 a リンパ管
11		肝臓・胆のう・膵臓		5 神経性調節-A. 神経組織 a 神経細胞と情報伝達, b 神経膠細胞
12	呼吸器系	鼻～喉頭		B. 中枢神経系の構造と機能 a 大脳, b 間脳, c 脳幹, d 小脳,
13		気管と気管支 肺		e 脊髄, f 中枢神経を保護する組織 C.末梢神経系 a 脳神経,
14	まとめ	前期総まとめ		b 脊髄神経と神経叢, c 体性神経系, d 自律神経系
15	予備			6 感覚と認識-A. 視覚 a 目の構造 B. 聴覚と平衡覚 a 耳の構造,
16	泌尿器系	腎臓の構造		b 平衡覚, c 聴覚 C. 嗅覚と味覚 a 嗅覚受容体の構造と嗅覚,
17		尿生成の仕組み		b 味覚受容体の構造と味覚 D. 皮膚感覚 a 皮膚の感覚受容器
18	生殖器系	男性生殖器		7 液性調節(内分泌系)-C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能
19		女性生殖器		a 視床下部, b 下垂体, c 甲状腺, d 上皮小体, e 膵島, f 中枢神経系を保護する組織, g 副腎髄質, h 消化管のホルモン, i 腎臓のホルモン, j 性腺ホルモン
20	内分泌系	内分泌器官の位置と形状		8 運動系-A. 姿勢 a 体位と構え B. 骨格 a 骨の構造と機能, b 体の支柱, c 四肢の骨, d 頭蓋骨と胸郭 C. 骨格筋 a 骨格筋の構造, b 筋収縮の機構, c 抗重力筋, d 四肢の筋, e 頸部の筋, f 表情筋, g 呼吸筋,
21	予備			
22	神経系	神経総論、脊髄		
23		脳		
24		脳神経		
25		脊髄神経 自律神経		
26	感覚器系	皮膚・視覚器		
27		平衡聴覚器など		
28	まとめ	後期総まとめ		
		* 後期中途 2 回分(半日)解剖見学実習を行う予定		

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
			<p>h 骨盤底筋 D.運動 a 関節の構造, b 関節運動の種類, c 随意運動と不随意運動, d 脊髄反射</p> <p>9 呼吸の機構-A.換気と発声 a 鼻腔の構造と機能, b 咽頭・喉頭の構造と機能, c 気管・肺の構造と機能, d 呼吸運動, f 声帯と発声</p> <p>10 栄養摂取の機構-B.咀嚼 a 歯・口腔の構造と機能, b 咀嚼の過程 C.嚥下 a 咽頭の構造と機能, b 食道の構造と機能, c 嚥下の過程 D.消化と吸収 a 胃の構造と機能, b 十二指腸の構造と機能, c 空腸・回腸の構造と機能, d 結腸の構造と機能, e 肝臓と胆道の構造と機能, f 膵臓の構造と機能</p> <p>11 排泄の機構-A.尿の生成 a 腎臓の構造, b 濾過, c 再吸収 C.排尿 a 膀胱の構造と神経支配, b 尿道の構造と神経支配 D.排便 a 直腸・肛門の構造と神経支配</p> <p>12 性と生殖に関する機構-A.女性の生殖系 a 女性生殖器の構造, b 性周期 B.男性の生殖系 a 男性生殖器の構造, b 精子の形成</p>
	テキスト	「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂)	
	参考書	<p>推薦書:「カラー人体解剖学」井上貴央監訳(西村書店) (図表向き、¥7,800)</p> <p>「系統看護学講座専門基礎1人体の構造と機能1解剖生理学」(医学書院)</p> <p>(国試向き、生理学にも対応、¥3500)</p>	

授 業 科 目 名		解 剖 生 理 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫
対 象 学 生		1 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命とは	目標 1: 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造を持ち機能しているかについて理解する。 目標 2: 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する。 細胞 組織・器官 体液 体温/体熱の産生と放散/体温の調節/発熱、 ホメオスタシス 生体リズム		1 生命 A. 細胞 a)細胞の構造 b)遺伝情報 B. エネルギー代謝 a)同化作用と異化作用 b)酵素 C. 内部環境の恒常性 a)体液 b)体液の電解質 c)体液の酸塩基平衡 d)体温 D. 生体のリズム a)睡眠と覚醒 E. 人体をおおう皮膚と膜 a)皮膚の構造と機能 b)漿膜・粘膜
2	血液	血液の成分と機能/赤血球・白血球・血小板/血漿		2. 血液 A. 血液の成分と機能 a)血液のはたらき b)血液の物理化学的特性 c)血液の成分 d)造血 B. 止血機構 a)凝固と線溶 C. 血液型 a)ABO型およびRh式
3		血液凝固 血液型		
4		生体の防御機構と免疫/生体の防御機構に働く器官と因子 免疫反応の分類 炎症とアレルギー		
5	生体防御機構と免疫			3. 生体の防御機構 A. 非特異的生体防御機構 a)生体表面での防御機構 b)食細胞とサイトカイン c)胸腺・脾臓・リンパ節 B. 特異的生体防御反応(免疫系) a)免疫系の細胞 b)抗原 c)液性免疫 d)細胞性免疫
6	循環	心臓血管系		4. 循環系 A. 心臓 a)心臓と心筋の構造 b)心臓の機能 c)刺激伝導系 B. 血管系 a)肺循環と体循環 b)動脈系と静脈系 c)脈拍 d)血圧 e)胎児の血液循環 C. リンパ系 a)リンパ管
7		血圧・血流・脈拍/循環の調節 リンパ循環 胎児循環		
8	呼吸	呼吸器系/呼吸器系の機能/肺機能の測定		9. 呼吸の機構 A. 換気と発声 a)鼻腔の構造と機能 b)咽頭・喉頭の構造と機能 c)気管・肺の構造と機能 d)呼吸運動 e)肺気量 f)声帯と発声 B. ガスの交換 a)外呼吸と内呼吸 b)ガス分圧 C. ガスの運搬 a)酸素の運搬 b)二酸化炭素の運搬 D. 呼吸調節 a).呼吸中枢 b)呼吸に影響を与える因子
9		ガス交換		
10		ガスの運搬 呼吸の調整		
11	1 st Midterm Exam	第 1 ~ 7 回		10. 栄養摂取の機構 A. 食欲 a)血と食欲の中樞 B. 咀嚼 a) 歯・口腔の構造と機能 b)咀嚼の過程 C. 嚥下 a)咽頭の構造と機能 b)食道の構造と機能 c)嚥下の過程 D. 消化と吸収 a)胃の構造と機能 b)十二指腸の構造と機能 c)空調・回腸の構造と機能 d)結腸の構造と機能 e)肝臓と胆嚢の構造と機能 f)膵臓の構造と機能 E. 代謝 a)栄養所要量 b)基礎代謝 c)炭水化物の代謝 d).脂肪の代謝 e)タンパク質の代謝 f)核酸の代謝 g)ビタミン・ミネラル
12	消化と吸収, 栄養と代謝	食物摂取と消化器系		
13	消化と吸収, 栄養と代謝	消化と吸収		
14	尿の生成と排尿	食欲, 栄養と代謝/エネルギー代謝		11. 排泄の機構 A. 尿の生成 a)腎臓の構造 b)濾過 c)再吸収 d)分泌
15		生体内の物質代謝 腎臓と尿の生成/腎臓の構造と機能/腎機能の測定 尿生成の調節		

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
16 17 18	神経	蓄尿と排尿 神経系とは 中枢神経系 末梢神経系	B.細胞外液の調節 a)抗利尿ホルモン作用 b)レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系 C.排尿 a)膀胱の構造と神経支配 b)尿道の構造と神経支配 D.排便 a)直腸・肛門の構造と神経支配 5.神経性調節 A.神経組織 a)神経細胞と情報伝達 b)神経膠細胞 B.中枢神経系の構造と機能 a)大脳 b)間脳 c)脳幹 d)小脳 e)脊髄 f)中枢神経系を保護する組織 C.末梢神経系 a)脳神経 b)脊髄神経と神経叢 c)体性神経系 d)自律神経系
19 20 21	感覚 皮膚と膜	感覚の一般的性質/視覚 聴覚/平衡感覚 嗅覚と味覚 体性感覚/内臓感覚/痛覚 皮膚の機能/皮膚の腺 人体の膜の機能	6.感覚と認識 A.視覚 a)目の構造 b)視覚の伝導路と認識 c)眼球運動 d)眼球に関する反射 B.聴覚と平衡覚 a)耳の構造 b)平衡覚 c)聴覚 C.嗅覚と味覚 a)嗅覚受容器の構造と嗅覚 b)味覚受容器の構造と味覚 D.皮膚感覚 a)皮膚の感覚受容器 b)皮膚感覚の種類 E.内部情報の処理 a)内部情報の受容体と認識
22	2nd Midterm Exam	第 16～22 回	
23 24 25	運動	運動器系とは 骨・関節・筋の機能/筋収縮のしくみ 運動の調節	8.運動系 A.姿勢 a)体位と構え B.骨格 a)骨の構造と機能 b)体の支柱 c)四肢の骨 d)頭蓋骨と胸郭 C.骨格筋 a)骨格筋の構造 b)筋収縮の機構 c)抗重力筋 d)四肢の筋 e)頸部の筋 f)表情筋 g)呼吸筋 h)骨盤底筋 D.運動 a)関節の構造 b)関節運動の種類 c)随意運動と不随意運動 d)脊髄反射
26 27 28	内分泌	ホルモンの一般的特徴 内分泌器官の機能	7.液性調節(内分泌系) A.ホルモンの種類 a)ホルモンの化学的性質と作用機序 B.ホルモン分泌の調節 a)調節ホルモン・拮抗ホルモン b)フィードバック機構 C.内分泌器官の構造とホルモンの機能 a)視床下 b)下垂体 c)甲状腺 d)上皮小体(副甲状腺) e)膵島 f)中枢神経系を保護する組織 g)副腎髄質 h)消化管ホルモン i)腎臓のホルモン j)性腺ホルモン
29 30	生殖, 成長・老化	生殖とは/受精 妊娠・分娩、 個体の成長/更年期/老化 ～ 総まとめ ～	12.性と生殖に関する機構 A.女性の生殖系 a)女性生殖器の構造 b)性周期 c)妊娠・分娩・産褥 B.男性の生殖系 a)男性生殖器の構造 b)精子の形成
	テキスト	「コアテキスト1 人体の構造と機能」下正宗・前田環・村田哲也(医学書院)	
	参考書		

授 業 科 目 名	体 の 発 生 と 発 達	担 当 教 員	澤 田 只 夫
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命の起源	生命誕生の準備(化学進化) 原始生命の誕生 生命を支える分子	1 生命 A . 細胞 a) 細胞の構造 b) 遺伝情報 B . エネルギー代謝 a) 同化作用と異化作用 b) 酵素 C . 内部環境の恒常性 a) . 体液 b) 体液の電解質 c) 体液の酸塩基平衡 d) 体温 D . 生体のリズム a) 睡眠と覚醒 E . 人体をおおう皮膚と膜 b) 漿膜・粘膜 E . 代謝 a) . 栄養所要量 b) . 基礎代謝 c) . 炭水化物の代謝 d) . 脂肪の代謝 e) . タンパク質の代謝 f) . 核酸の代謝 g) ビタミン・ミネラル 12 . 性と生殖に関する機構 A . 女性の生殖系 a) 女性生殖器の構造 b) 性周期 c) 妊娠・分娩・産褥 B . 男性の生殖系 a) 男性生殖器の構造 b) 精子の形成
2	生命の単位	細胞の構造と機能	
3		生体の構造と機能	
4			
5	生命現象とエネルギー	酵素 共通のエネルギー源 光合成 呼吸	
6	細胞の増殖	細胞周期 ヒトの配偶子形成 メンデルの法則 遺伝子の本体 DNAの働き	
7	生命をつなぐ遺伝情報	ヒトの遺伝 遺伝と環境	
8			
9	Midterm Exam	受精	
10	発生・分化	発生過程	
11			
12	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ 性の分化とホルモン	
13			
14	ヒトへの進化	進化とその要因 進化の事実と証拠 ヒトの進化 ヒトと地球環境	
15	生物と地球環境	環境汚染化学物質 環境保全 ～ 総まとめ ～	
	テキスト	「人の生命科学」渡辺強三・佐々木史江・堀口毅 著 (医歯薬出版)	
	参考書		

授 業 科 目 名	物理学と看護人間工学	担 当 教 員	武 田 淳 史
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	オリエンテーション 動き易さ使いやすさ	講義内容の全体像について説明 看護と理学に役立つ看護人間工学と医用工学について 身体にとって良い動作、生活姿勢について	基本的看護技術 -目標 2-
2	人工臓器	人工臓器の現状と将来について その際の看護師の役割について	2 基本的日常生活援助技術 A 環境を整える技術 a 環境の調整 温度、湿度 D 身体の清潔の援助技術 c 褥瘡の予防処置
3	看護人間工学	看護人間工学とは。	
4	医療器械	運動支援システム、通信システムについて	
5	介助、看護動作	理学、看護に役立つ介護動作について	3 診療に伴う技術 A 診察・検査 c 検査時の看護 心電図
6	外科の看護理学	手術室での看護師の役割、その後の対応	
7	温熱療法	熱伝導、対流理論とその応用。温熱療法とは	
8	エネルギー	人間のエネルギー代謝	身体の構造と機能 4 流通路としての循環系 A 心臓 a 心臓と心筋の構造 b 心臓の機能 B 血管系 d 血圧
9	心電図	心臓の刺激伝導系、活動電位と原理 看護の臨床の現場で必要なこと	
10	聴診器	聴覚と聴診器について 臨床に役立つ聴診法	
11	医療事故対策(1)	看護理学に役立つ医療機器の基本構成と取扱	8 運動系 A 姿勢 a 体位と構え D 運動 a 関節の構造
12	医療事故対策(2)	看護理学に役立つ機器の安全確保について	
13	実習 A 室内環境	室内の温度・湿度ムラ調査 理想的室内環境とは	10 栄養摂取の機構 E 代謝 b 基礎代謝
14	実習 B バリアフリー	ドアの開閉と取っ手の高さの調査 バリアフリーの概念	
15	実習 C 臨床応用	皮膚温度、インピーダンス測定 褥瘡予防の最前線	
テキスト			
参考書		「系統看護学講座基礎 1 物理学」青木和夫 著 (医学書院) 「看護にいかす物理学」 青木和夫 著 (医学書院)	

授 業 科 目 名	栄 養 学	担 当 教 員	後 藤 香 織
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	栄養学とは	エネルギーとは？代謝とは？栄養とは？	人体の構造と機能 10 栄養摂取の機構 E 代謝 a) 栄養所要量 b) 基礎代謝 c) 炭水化物の代謝 d) 脂肪の代謝 e) たんぱく質の代謝 f) 核酸の代謝 g) ビタミン・ミネラル
2	代謝と栄養	糖代謝	
3	"	脂質代謝	
4	"	アミノ酸代謝	
5	"	タンパク質合成	
6	"	セントラルドグマ	
7	病気と栄養	電解質代謝、ビタミン、ミネラル	
8	"	栄養所要量の計算、消化器疾患()	
9	"	消化器疾患()	
10	"	消化器疾患()	
11	"	腎疾患()	
12	"	腎疾患()	
13	"	内分泌、代謝疾患()	
14	"	内分泌、代謝疾患()、循環器疾患	
15	まとめ	血液、感染症、アレルギー、骨、関節疾患 演習 他	
	テキスト	「新選 食品成分表」(実教出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(文光堂) 「新版看護栄養学全書 栄養学」(メヂカルフレンド社)	
	参考書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂) 「臨床栄養学 食事療法の理論」(医歯薬出版株式会) 「看護栄養学」(医歯薬出版株式会社)	

授 業 科 目 名		生 化 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫		
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期		
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室		
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準		
1	生体分子と細胞	生化学の項目を別々に覚えるのではなく、一人の患者さんを診て看護するときのように、他の科目とお互いに関連付けて学ぶよう心がけよう。 生体の成り立ち / 個体、器官、組織、細胞 / 細胞内小器官の機能 / 細胞分画法 / 生体を構成する物質 / 代謝 生体で起きている化学反応		1 生命 A. 細胞 a) 細胞の構造 b) 遺伝情報 B. エネルギー代謝 a) 同化作用と異化作用		
2	生体内における糖の代謝	糖とは何か / 糖の分類 / 糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である / グルコースとグリコーゲンの合成 / 血糖の調節 / 筋肉運動のエネルギー源 ; 筋肉運動における代謝 / 糖尿病		10. 栄養摂取の機構 A. 食欲 a) .血糖と食欲の中樞 E. 代謝 c) .炭水化物の代謝		
4		生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質 / 脂質の代謝 / リポタンパク質と脂質代謝異常		d) .脂肪の代謝	
6			タンパク質の分類 / タンパク質を構成しているアミノ酸はL - a - アミノ酸である / タンパク質を構成しているアミノ酸の種類 / アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している / タンパク質の高次構造 / タンパク質は変性し、機能を失う / 血漿タンパク質		e) .タンパク質の代謝	
7	タンパク質の性質					
8	酵素の性質と働き	酵素とは / 酵素の特性 / 酵素の種類 / アイソエンザイム / 血清酵素の診断への利用 / 酵素による代謝調節 / フィードバック調節		b) 酵素		
9	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脱アミノ反応 / 脱炭酸反応 / 尿素回路 / 糖新生 / エネルギー代謝 / 分枝鎖アミノ酸の代謝 / 含硫アミノ酸の代謝 / オキシアミノ酸の代謝 / 芳香族アミノ酸の代謝 / アミノ酸の先天性代謝異常症 / 主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動				
10						
11	生体内における核酸の役割	核酸の所在 / 2 種類の核酸と構造 / 核酸はコピーされる / タンパク質を作るための核酸 / いらなくなった核酸の処分 / 核酸の仲間 / 遺伝病の犯人は？ / 遺伝子操作のもたらす世界 / ヒトゲノム		f) .核酸の代謝		
12						
13	ビ タ ミ ン	水溶性ビタミン / 脂溶性ビタミン		g) ビタミン・ミネラル		
14	体 液	水 / 体液の電解質 / 酸・塩基平衡 総まとめ		C. 内部環境の恒常性 a) .体液 b) 体液の電解質 c) 体液の酸塩基平衡		
15	Exam					
テキスト		「わかりやすい生化学」石黒伊三雄、篠原力雄 他 (NOUVELLE HIROKAWA)				
参考書						

授 業 科 目 名	健 康 科 学	担 当 教 員	近 藤 照 彦
対 象 学 生	1 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	前期 健康科学について	科目説明、評価、健康手帳記載の指示、回収評価の指示と承認について、問診表、ライフスタイル調査 健康診断検体依頼と承諾	
2	ウォーキング	わらび荘-天文台-テニスコート経由	
3	12 分間走	12 分間走距離から個人の最大酸素摂取量を推定する	
4	12 分間走	(入学時の持久力評価)	
5	筋力測定・選択スポーツ	等速性脚筋力の測定から体重支持指数を用いて脚筋力を評価する . 球技・レクリエーション・スポーツを選択し , 自主的に参加する .	
6	筋力測定・選択スポーツ	同上	
7	筋力測定・選択スポーツ	同上 , 健康手帳評価	
8	筋力測定・選択スポーツ	同上	
9	筋力測定・選択スポーツ	同上	
10	選択スポーツ	同上 , 健康手帳評価	
11	選択スポーツ	脂肪組織由来内分泌因子 (アディポサイトカイン)	
12	選択スポーツ	レプチン測定結果の報告	
13	選択スポーツ	同上	
14	選択スポーツ	同上	
15	選択スポーツ	同上 , 健康手帳評価	
	後期	同上	人体の構造と機能 目標 1 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う
1	健康科学について	科目説明、評価、健康手帳記載の指示	目標 2 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う
2	12 分間走	12 分間走距離から個人の最大酸素摂取量を推定する	4 循環系
3	脚筋力測定	(持久力の経過を観察する) , 脚筋力の経過をみる .	A 心臓
4	選択スポーツ	脂肪組織由来内分泌因子 (アディポサイトカイン)	B 血管系
5	講義	レプチン測定結果の報告	8 運動系
6	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択	B 骨格
7	実習	骨格・関節の運動	C 骨格筋
8	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択	D 運動
9	講義	下肢筋力測定・体力測定	9 呼吸の機構
10	実習	球技・レクリエーション・スポーツを選択	A 換気と発声
11	選択スポーツ	筋肉・関節の運動	B ガス交換
12	講義	下肢筋力・体力測定	C ガスの運搬
13	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択	D 呼吸調節
14	実習	呼吸系の機能と構造	
15	選択スポーツ	球技・レクリエーション・スポーツを選択	
	テキスト	指定せず	
	参考書	解剖生理学指定テキスト	

授 業 科 目 名	心 理 学 の 基 礎	担 当 教 員	北 川 公 路
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	医療と心理学	心理学とは何か 医療と心理学、心理学の関連領域	精神看護学 目標 2 精神看護の基本概念 や精神医学の診断・治療を理解し、看護援助を実践できる能力を問う B 精神分析モデル
2	心理学の諸理論	心理学の起源 精神分析理論	
3	学習	行動理論、認知理論 条件づけ	精神看護学 目標 1 精神の構造と機能を理解し、健康レベルと障害との関連や精神の不健康状態について理解するための知識を問う 1 精神の健康 B 精神の機能と障害 g) 記憶と記憶障害 人体の構造と機能 6 感覚と認識 A 視覚 B 聴覚と平衡覚 C 臭覚と味覚 D 皮膚感覚 精看-目 1-B e) 感情と感情障害 必修問題 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 1 人間の特性 A 人間と欲求 a) 基本的欲求 b) 社会的欲求
4	記憶	認知学習 短期記憶と長期記憶 記憶障害	
5	感覚と知覚	五感のはたらき	
6	情動	情動 感情の機能	
7	動機づけ	動機づけ 動機づけの種類	
8	社会心理学	社会的認知 人間関係	
9	ストレス	ストレスとは何か ストレスの心理生物学的影響	成人看護学 目標 1 成人の生活と健康問題についての理解を問う 2 成人に特有な健康問題の特徴

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
10 11	パーソナリティと自己理解	パーソナリティの諸理論 パーソナリティの形成 性格検査	C 生活ストレスに関連する健康障害 a) ストレスの種類と生理的適応 b) 生活ストレスと健康障害 目標 2 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う 1 成人の特性や能力に応じたアプローチ B 独自の信念や行動パターンを持つ存在 b) ストレスコーピング
12	知能	知能、知能検査 知能の発達と障害	精看-目 2 3 精神科治療と看護 B 臨床検査 d) 人格検査 精看-目 2-3-B b) 知能検査 老年看護学 目標 2 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う
13	こころの発達	発達諸理論 親子関係の発達、生涯発達心理学	4 障害・疾病をもつ高齢者への看護 G 老人性痴呆・精神障害 a) 痴呆の種類と評価方法 必修問題-
14 15	臨床心理学と心理療法	臨床心理学 心理療法 カウンセリング	2 人間の成長と発達 B 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 e) 母子関係 精看-目標 1-1 A 精神の構造 a) 意識・前意識・無意識 b) イド・自我・超自我
	テキスト	「医療の行動科学 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー」 (北大路書房)	
	参考書		

授 業 科 目 名	国文学入門(' 0 4)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師
対 象 学 生	1 ・ 2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		放送大学ホームページ 「講義内容・担当教員」参照 [http://www.u-air.ac.jp/hp/]	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		教 育 学	担 当 教 員	横 井 利 男	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	教育の本質	「自立」と「共生」 看護・医療と教育 子供への教育と大人への教育			
2	教育の目的	「変える教育」と「引き出す教育」			
3		「教」と外的動機づけ			
4		「育」と内的動機づけ			
4		体験の重要性と発達課題 現代社会の要請 狭義の学力・広義の学力 人権・福祉の教育 国際理解の教育 環境の教育ほか			
5	教育の場と その内容・方法	家庭の役割			
6		乳幼児教育			
7		小・中学生のいる家庭			
8		学校教育			
9		学校制度の変遷とこれからの学校			
10		教師の養成と望ましい教師像			
11		教育の内容（経験主義と系統主義）			
12		教育の方法			
13		学習指導の実際 学校の抱える課題 問題行動と生徒指導 社会的病理と教育 カウンセリングマインド			
13		社会教育			
14	教育と法律	憲法・教育基本法 義務教育関係・社会教育関係・家庭教育			
15	自己教育	自己実現・自己教育力、生涯学習社会			
テキスト		主としてプリントによる			
参考書		第1回で提示する			

授 業 科 目 名	カ ウン セ リ ン グ 論	担 当 教 員	北 川 公 路
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2	患者とのコミュニケーション	医療者と患者のコミュニケーション 言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション 患者の訴え方：その聴き方と応え方 患者と家族への援助 患者間関係 ピアカウンセリング	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション
3 ~ 5	カウンセリングとは何か	カウンセリングの特徴 カウンセラーの役割	
6 ~ 9	カウンセリングの理論と方法()	クライアント中心療法	
10 ~ 12	カウンセリングの理論と方法()	行動カウンセリング 認知行動カウンセリング 精神分析的アプローチ	
13 ~ 14	カウンセリングと心理テスト	カウンセリングにおける心理テストの意義と役割 心理テストの種類 質問紙による人間理解	
15	事例研究	看護の面接事例 各回、実習(ロールプレイ、紙上応答訓練)を行う	
	テキスト	「看護に活かす 積極的傾聴法」 (メディカ出版)	
	参考書		

授 業 科 目 名		現代人のための哲学(‘00)	担 当 教 員		
対 象 学 生		1 ・ 2 学 年	学 期		前 期
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択		講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容			国 家 試 験 出 題 基 準
		* 本年度開講せず			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		日本の文化と思想（'98）	担 当 教 員		
対 象 学 生		1 ・ 2 学 年	学 期		前 期
単 位 （ コ マ 数 ）		2 単 位 （ 1 5 コ マ ）	選 択		講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容			国 家 試 験 出 題 基 準
		* 本年度開講せず			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名	情 報 処 理 入 門	担 当 教 員	西 谷 泉	
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
		<p>現在は高度情報化社会である。医療看護の世界にも情報化の波は着実に押し寄せており、今後医療関係の世界で活躍する本学の学生にとって、情報科学、情報処理、コンピュータの知識と技術の修得は必要不可欠なものとなってきている。</p> <p>本講義と演習は連続した内容である。よって、「情報処理入門」と「情報処理入門演習」は続けて履修するが望ましい。この「情報処理入門」と「情報処理入門演習」の中で、主に Word、Excel を使用して、情報処理の基本的な知識、コンピュータを活用した文書作成の基本知識と技術、統計学の基礎知識、プレゼンテーションなどについての理論と実習の指導を行う。</p> <p>《授業計画》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報、情報処理の基礎的知識 2. Windows の基礎知識 3. Word 入門 4. 文字入力 5. 文書入力、文書の作成 6. 文書の訂正、修正 7. 文書の編集 8. 文書と表の結合 9. 計算機能 10. ビジュアルな文書の作成 11. PowerPoint の基礎 12. プレゼンテーションの基本事項 13. プレゼンテーションの作成 14. 課題発表 15. 課題発表 16. 試験 <p>本講義は「情報処理入門演習」と連携して進めるので、後期「情報処理入門演習」も受講するが望ましい。</p> <p>本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについての予備知識をとくに必要としない。</p> <p>試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。</p>		
	テキスト	<p>「30 時間でマスター Word2002」宮詰正幸他（実教出版）</p> <p>「30 時間でマスター プレゼンテーション + PowerPoint2000」永井克昇他（実教出版）</p>		
	参考書			

授 業 科 目 名	情 報 処 理 入 門 演 習	担 当 教 員	西 谷 泉
対 象 学 生	1 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>現在は高度情報化社会である。医療看護の世界にも情報化の波は着実に押し寄せており、今後医療関係の世界で活躍する本学の学生にとって、情報科学、情報処理、コンピュータの知識と技術の修得は必要不可欠なものとなってきている。</p> <p>本演習は情報処理入門に続くものである。よって、情報処理入門と情報処理入門演習は続けて履修すること。この演習の中では、Excel、PowerPoint を使用して、主にデータ処理の基礎知識と方法、研究成果の発表等のためのプレゼンテーションの基礎知識と方法技術などについて理論と実習の指導を行う。</p> <p>《授業計画》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基礎 2. 統計学の基礎 3. Excel の基本 4. 合計、平均の計算 5. 関数の活用 6. 最大・最小 7. 表の作成 8. グラフ作成 9. 様々なグラフ 10. データベースの基本事項 11. データのソート、検索、集計 12. Word への Excel の埋め込み 13. Word への Excel のリンク埋め込み 14. 研究課題作成 15. 研究課題の発表(プレゼンテーションの実習) 16. 試験 <p>本講義は「情報処理入門」と連携して進めるので、「情報処理入門」も受講することが望ましい。</p> <p>本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについての予備知識をとくに必要としない。</p> <p>試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。</p>	
	テキスト	「30 時間でマスター Excel2002」小倉俊悦他（実教出版）	
	参考書		

授 業 科 目 名	数 学	担 当 教 員	石 井 満
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		1 行列 1)定義 2)演算 3)行列の諸性質とその応用 2 微積分 1)微分とその応用 2)積分計算とその応用 3)確率密度	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	統 計 学	担 当 教 員	石 井 満
対 象 学 生	1 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		医療、看護分野のデータを例題に用い 1.記述統計 2.正規分布 3.推定 4.検定 について講義する。	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	社会保障制度と生活者の健康	担 当 教 員	金 谷 春 代
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	社会保障の理念	私達の生活と社会保障	目標 2 - 1 社会保障の理念 A .日本の保健医療福祉活動の基本方向 a .理念、憲法第 25 条 b .人権 c .倫理 d .ノーマライゼーション e .情報開示 f 地方分権 g 医療費の増大 f .介護保険・医療保険制度改革
2	社会保険制度	社会保障における社会保険の意味を考えながら、日常生活の中で、社会保険がどのような役割をしているのかを捉える。	目標 2 - 2 社会保険制度 A .社会保険の変遷 a .歴史、意義 b .国民皆保険・皆年金 B 医療保険制度 a .健康保険法 b 国民健康保険法 c 保険給付の種類 d .療養の給付内容 C 介護保険制度 a .介護保険給付の種類 b .給付内容 c .保険者・被保険者 D 年金制度 a .年給給付の種類 b 給付内容 E その他の社会保険制度 a 雇用保険法 b 労働者災害補償保険法
3	社会福祉諸法	福祉制度の成り立ちと時代背景、福祉制度の変化と時代背景から福祉政策の今後の課題について考える。	目標 2 - 3 社会福祉諸法の理念と施策 A .社会福祉の理念と変遷 a .社会福祉法 b .措置から選択へ c 受益者負担 B .生活保護法と施策 a .生活保護法の原則 b .実施機関 c 保護の実施 C . .障害者（児）への施策 a . .障害者基本法 b .身体障害者福祉法 . c .知的障害者福祉法 d 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 e .学校教育 D 児童への施策 a 児童憲章 b 児童福祉法 c 児童虐待防止に関する法律 E .老人への施策 a .老人福祉法 b 老人保健法 F その他の施策 a 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 < DV 防止法 >
4	生活保護法と施策	生活保護とは、どのような制度なのか。原則、原理と最低限度の生活とは何かを考察。	
5	障害者（児）福祉と施策	障害の形態と施策、障害の捉え方と理念	
6	児童への施策	児童に対する考え方と各種施策	
7	老人への施策	社会保障制度や福祉制度に大きな変化をもたらす高齢者問題を身近な問題として考える。	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
8	社会福祉行政	保健福祉計画と各々のプランの目標を理解し、少子高齢者社会の福祉行政のあり方を考える。	目標2-4 社会福祉行政 A. 保健福祉計画 a. ゴールドプラン 21 b. 新エンゼルプラン c. 障害者プラン d. 保健福祉計画
9	社会福祉の民間活動	民間活動の役割が福祉行政の変化の中で重要になってきている。民間活動が社会福祉に及ぼす影響や地域福祉を推進する上での役割を捉える。	B. 社会福祉の民間活動 a. 民生委員、児童委員 b. 社会福祉協議会 c. ボランティア活動 d. 特定非営利活動促進法(NPO法)
10	国、地方公共団体の行政と組織及びマンパワー	各専門職の必要性と連携のあり方、各々の専門性を理解する。	C. 国、地方公共団体の行政と組織及びマンパワー a. 福祉事務所 b. 児童相談所 c. 社会福祉施設 d. 在宅サービス機関 e. 介護支援専門員(ケアマネジャー) f. 社会福祉士及び介護福祉士
11	老人保健福祉行政の展開	高齢者の尊厳とは、権利擁護制度の必要性、高齢者の生きがいとは、介護予防施策の目標等、高齢者の生活実態を考えながら、保健福祉行政のあり方を展望する。	g. 精神保健福祉士 D. 老人保健福祉行政の展開 a. 入所措置権の町村への移譲 b. 市町村及び都道府県の老人福祉計画 c. 高齢者の生きがい対策 d. 介護予防
	テキスト	「新・社会福祉概論 変革期の福祉を見つめて」	
	参考書	「国民の福祉の動向」 「社会福祉六法」	

授 業 科 目 名	社会保障制度と生活者の健康	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	公衆衛生の基本概念	健康の概念 公衆衛生の概念 プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション WHO 疫学	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 3 1. 健康と公衆衛生 A 公衆衛生の概念 a) 公衆衛生の領域、活動の特徴 b) プライマリヘルスケア c) ヘルスプロモーションの展開 d) 世界保健機構加盟国の役割 C 疫学的方法による健康の理解 a) 健康被害と母集団 b) 疫学的因果関係の推定 c) 臨床疫学とエビデンス 【必修問題】 . 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う
2	健康の指標	粗死亡率と年齢調整死亡率 乳児死亡率 平均余命と平均寿命	1. 健康に関する指標
3	健康の指標	死因別死亡率 有訴者率 受療率 患者調査	B 人口動態 b) 死亡の動向 C 健康状態と受療状況 a) 平均余命 B 人口動態 a) 死因の動向 C 健康状態と受療状況 b) 有訴者の状況 c) 受療率 d) 入院期間
4	人口静態	国勢調査 総人口 年齢別人口 労働人口 将来推計人口 世帯の動向	A 人口の動向 a) 総人口 b) 年齢別人口 c) 労働人口 d) 将来推計人口 e) 世帯数
5	人口動態	人口動態 5 事象 粗出生率 合計特殊出生率 再生産率 人口の高齢化	B 人口動態 a) 出生の動向 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 3
6	環境保健	環境 典型 7 公害 地球環境問題	1. 健康と公衆衛生

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
7	環境保健	水の衛生と水質汚濁 廃棄物処理	B 健康と環境 a)生態学的環境 b)物理化学的環境 c)社会的環境 d)身体的、精神・心理的影響 3.生活環境の保全 A. 地球環境 a)地球温暖化 b)オゾン層の破壊 c)酸性雨 D ゴミ・廃棄物 a)一般廃棄物と産業廃棄物 b)市町村の責任 c)生活廃水処理
8	食品衛生	食中毒とその予防、食品衛生、国民栄養調査	C 食品管理および家庭用品 a) 食品安全確保対策 b) 食品衛生管理者 c)家庭用品の安全対策
9	感染症対策	感染症の成り立ち(感染源 感染経路 宿主)とそれぞれの遮断手立て	2 健康指標と予防 B. 感染症とその予防 a)感染症の成立要因 b)感染症の流行現象
10	感染症対策	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、結核予防法、院内感染、新興感染症、再興感染症	c)感染症予防の基本 d)感染症法 e)院内感染とその予防 f)予防接種法 g)結核予防法 h)HIV 感染症 / AIDS と性感染症
11	生活と健康	疾病予防の3段階と各段階の主要対策 生活習慣病 生活習慣病のリスク要因と曝露の回避・低減 - 食事・栄養	【必修問題】 ・看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う
12	生活と健康	生活習慣病のリスク要因と曝露の回避・低減 - 睡眠、運動	2. 健康と生活 A 生活習慣
13	生活と健康	生活習慣病のリスク要因と曝露の回避・低減 - 飲酒、喫煙	a)食事・栄養 b)睡眠 c)運動 d)飲酒 e)喫煙
14	労働と健康	産業保健の3領域 - 健康管理 作業管理 作業環境管理、トータルヘルスプロモーション 職業性疾病	B 労働 a)職業性疾病
15	労働と健康	労働災害 母性保護と両立支援 - 労働基準法 男女雇用機会均等法 IL0156号条約	b)母性保護と両立支援
	テキスト	「国民衛生の動向 2003 年度版」厚生統計協会(厚生統計協会) 2003	
	参考書	「シンプル衛生公衆衛生学 2003」鈴木庄亮・久道茂編(南江堂) 2004	

授 業 科 目 名	社会保障制度と生活者の健康	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	法規	法規の概念、法規の種類、衛生法規	【必修問題】 ・看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 4 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 5 保健師助産師看護師法 A. 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務 b) 看護師に禁止されている業務 c) 守秘義務 d) 教務従事者届 B. 看護職員 a) 養成制度 b) 就業状況 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 4 1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 B. 保健師助産師看護師法 A. 医療サービスの供給体制 h) 医療過誤 C. 看護職と関係法規 i) 理学療法士及び作業療法士法 e) 医師法 a) 医療法・薬事法の理念 b) 医療施設の充実 c) 救急医療の充実 d) 診療記録・情報公開 e) 薬局の種類と機能 f) 医薬品と医療用具の取扱い g) 毒薬・劇薬の取扱い 目標 3 4. 保健活動 A. 地域保健 a) 地域保健法の理念と指針 b) 健康日本 21 c) 健康増進法 d) 市町村保健センター e) 保健所 目標 4 1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 C 看護職と関係法規 a) 労働基準法 b) 労働条件の原則 c) 育児・介護休業法 d) 看護師等の人材確保の促進に関する法律
2	医事法規(1)	保健師助産師看護師法	
3	医事法規(2)	保健師助産師看護師法	
4	医事法規(3)	保健師助産師看護師法	
5	医事法規(4)	医療過誤と法的責任	
6	医事法規(5)	理学療法士及び作業療法士法	
7	医事法規(6)	医師法	
8	医事法規(7)	医療法	
9	医事法規(8)	医療法	
10	医事法規(9)	医療法	
11	薬事法規(1)	薬事法	
12	薬事法規(2)	薬事法	
13	保健衛生法規(1)	地域保健法、健康増進法	
14	労働法規(1)	労働基準法、労働条件	
15	労働法規(2)	育児・介護休業法、看護師等の人材確保の促進に関する法律	
テキスト		プリントによる。	
参考書		「健康政策六法 最新年度版」医療法制研究会(中央法規) 「社会福祉六法 最新年度版」社会福祉法規研究会監修(新日本法規)	

授 業 科 目 名	家 族 論 (' 0 1)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師
対 象 学 生	1 ・ 2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		放送大学ホームページ 「講義内容・担当教員」参照 [http://www.u-air.ac.jp/hp/]	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	ケ ア の 社 会 科 学	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	ケア(1)	ケアとはどういうことか	【必修問題】 .看護の社会的側面のよび倫理的側面に関する基礎的知識を問う 4 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームド・コンセント e) ノンマジェーシヨ 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族(世帯) b) 住居 c) 家族周期 B. 家庭生活の基本機能 a) 生産・労働 2. ライフスタイル A. 家族の機能と役割 a) 夫婦の役割機能の変化 b) 家族内介護者の変化 c) 育児と介護の社会化 e) 家事機能の変化 1. 生活基盤 B. 家庭生活の基本機能 b) 教育・養育 c) 保健・福祉 d) 生殖 f) 慰安・交流
2	ケア(2)	他者のケアを役割にすることが孕む一面のリスク、リスクを回避するには	
3	家族をとらえる(1)	家族の概念 近代家族の特徴	
4	家族をとらえる(2)	国際家族年に示された家族の理念、家族と世帯、世帯の動向	
5	家族の機能(1)	生活保障 - 労働、家事労働	
6	家族の機能(2)	感情機能 家族のゆくえ	
7	家族機能の破綻とその解決援助(1)	児童虐待とはどういう問題か	
8	家族機能の破綻とその解決援助(2)	調査結果から 児童虐待とドメスティックバイオレンス	
9	家族機能の破綻とその解決援助(3)	児童虐待への対応 - 予防、発見、危機介入(初期対応)、問題解決のための長期的対応	
10	家族機能の破綻とその解決援助(4)	児童虐待への対応の鍵概念 - 自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	
			【必修問題】 .看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 3 患者と家族 A 家族の機能 a) 家族関係 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 2. ライフスタイル A. 家族の機能と役割 c) 育児と介護の社会化 B. ライフスタイルの変化

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
11	家族機能の破綻とその解決援助(5)	ドメスティックバイオレンスとはどういう問題か、調査結果から	b)少子化、健康寿命の延長 e)家族観の多様化 3.人間の集団としての働き A.集団の形成・発達 a)集団の凝集性 B.地域における人間関係 a)親族、近隣、交際のネットワーク b)地域のソーシャルサポートネットワーク 【社会保障制度と生活者の健康】
12	家族機能の破綻とその解決援助(6)	ドメスティックバイオレンスへの対応 - 総合的対策、DV防止法、被害者保護、相談体制、問題解決(含自立)支援、加害者対応	目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 2.ライフスタイル A. 家族の機能と役割 a)夫婦の役割機能の変化 B. ライフスタイルの変化 a)雇用労働の進行、女性労働の変化 3.人間の集団としての働き A.集団の形成・発達 b)集団の意思決定 1.生活基盤 C. 生活の場と健康 a)都市 b)農村・漁村 b) 僻地 D. 労働と健康 a)仕事内容 a) 労働時間 c)仕事と余暇 2.ライフスタイル B. ライフスタイルの変化 d)生涯学習、地域活動への参加 〔必修問題〕 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 3患者と家族 A 家族の機能
13	性別(1)	戦後日本社会は性別についてどのような慣習や通念を組み込んできたか - 二重の悪循環	
14	性別(2)	戦後日本社会は性別についてどのような慣習や通念を組み込んできたか - 二重の悪循環	
15	性別(3)	これからの社会：性別について公正な社会をつくる	
	テキスト	プリントによる。	
	参考書	「21世紀家族へ【新版】」落合恵美子(有斐閣)	

授 業 科 目 名	社会調査の基礎(' 01)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師
対 象 学 生	1 ・ 2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		放送大学ホームページ 「講義内容・担当教員」参照 [http://www.u-air.ac.jp/hp/]	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		経 済 学	担 当 教 員	坂 本 俊 造	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	講義のねらい	将来、社会人として必要と思われる経済の知識を易しく伝授するのが目的。15 時間という限られた時間数の中で、あくまで現実の経済の動きを中心に講義します。「経済学」からまず「学」を外して考えてください。			
2	経済の仕組み	1)何が経済を動かすのか 2)GDP(国内総生産額)とは			
3	景気指標の見方	1)景気変動とは 2)景気の現状と先行きを読む方法			
4	物価変動の背景	1)インフレとデフレ 2)デフレ経済の特徴			
5	為替レートの変動	1)変動相場制への推移 2)円が安くなったり高くなる理由			
6	少子・高齢化問題	1)少子、高齢化の現象 2)少子・高齢化が経済、社会に及ぼす影響			
7	政府・日銀の経済政策	1)経済変動に対する政府、日銀政策の役割 2)日本の財政悪化の理由			
8	経済のグローバル化をめぐって	1)EU, NAFTA など地域統合の進展 2)貿易紛争と WTO の役割 3)アジア経済の特徴			
		注：以上はあく迄骨格を示すもので、現実の動きに照らして変更する予定			
テキスト		「入門の入門 経済のしくみ」大和総研（日本実業出版社）最新版			
参考書					

授 業 科 目 名		生活学入門-日常生活の探求-	担 当 教 員	
対 象 学 生 (収 容 数)		1 ・ 2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
		* 本年度開講せず		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名	英語 (基礎英語・医学英語)	担 当 教 員	川 口 恵 子	
対 象 学 生	1 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	年間授業の説明		
2	基本表現 / エピソード 1	あいさつ、お礼などコミュニケーションの基本表現を身につける / 看護エピソード 1 を読む		
3	看護エピソード 1	看護エピソード 1 の続きを読む		
4	挨拶 / エピソード 2	挨拶の練習 / 看護エピソード 2 を読む		
5	エピソード 2	看護エピソード 2 の続きを読む		
6	電話に答える / エピソード 2	患者からの電話に答える練習 / 看護エピソード 2 の続きを読む		
7	Review	これまでの授業の復習と応用		
8	案内 / エピソード 3	受付案内での会話練習 / 看護エピソード 3 を読む		
9	エピソード 3	看護エピソード 3 の続きを読む		
10	受付 / エピソード 3	病院受付での会話練習 / 看護エピソード 3 の続きを読む		
11	エピソード 4	看護エピソード 4 を読む		
12	順番待ち / エピソード 4	待合室での会話練習 / 看護エピソード 4 の続きを読む		
13	エピソード 4	看護エピソード 4 の続きを読む		
14	自己紹介 / Review Examination	初対面の人に挨拶する練習 / 前期授業のまとめ 前期末試験		
15	Semi-introduction / 患者への病棟説明	後期授業の説明 / 病棟内の規則などについて説明する練習		
16	クレーム / エピソード 5	患者の要望に応える練習 / 看護エピソード 5 を読む		
17	エピソード 5	看護エピソード 5 の続きを読む		
18	栄養指導 / エピソード 6	食事に関する会話の練習 / 看護エピソード 6 を読む		
19	エピソード 6	看護エピソード 6 の続きを読む		
20	生活指導 / エピソード 7	生活に関する会話の練習 / 看護エピソード 7 を読む		
21	エピソード 7	看護エピソード 7 の続きを読む		
22	Review	これまでの授業の復習とまとめ		
23	再診 / エピソード 8	久しぶりに会った患者との会話をする練習 / 看護エピソード 8 を読む		
24	エピソード 8	看護エピソード 8 の続きを読む		
25	別れ / エピソード 9	悲しみを伝える表現の練習 / 看護エピソード 9 を読む		
26	エピソード 9	看護エピソード 9 の続きを読む		
27	明るい未来 / エピソード 10	患者との会話練習 / 看護エピソード 10 を読む		
28	エピソード 10	看護エピソード 10 の続きを読む		
29	Examination	学年末試験		
	テキスト	「英語で読む看護のエピソード」助川尚子他著 (南雲堂) 「English for Manners and Hospitality」古閑博美他著 (鷹書房弓プレス)		
	参考書			

授 業 科 目 名	英語 (オーラルイングリッシュ)	担 当 教 員	川 口 恵 子
対 象 学 生	2 学 年	学 生 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	年間授業の説明	
2	Emergency English	基礎的な会話の対応表現の学習と練習	
3	Where are you from? Could you tell me	自己紹介の時の基本的な質問と答え方	
4	your address, please? Review	患者の基本情報を聞く。丁寧な質問の仕方	
5	Outpatient clinic	住所、電話番号、数字の読み方・今までの復習と応用	
6	Giving Directions	外来患者に対する受付の練習	
7	Asking about	病院内の場所を説明する練習	
8	symptoms	症状の尋ね方	
9	Where does it hurt?	症状と兆候の表現の練習	
10	Review	痛みについてたずねる(1)	
11	Medical history	痛みについてたずねる(2) 人体各部の名称	
12	Review	今までの医療単語を使った会話の練習	
13	Examination	既往歴について尋ねる(1)	
14	Semi-introduction	前期授業の復習とまとめ	
15	Medical history	前期末試験	
16	Medication	後期授業の説明	
17	Medical tests	既往歴についてたずねる(2) 病名の英語	
18	Surgery	薬の服用について指示する	
19	Review	頻度、薬の種類などの表現について学習、その応用	
20	After surgery	検査の指示をする	
21	Review	検査の言い方、時間の表現の練習	
22	Culture and Religion	手術前のオリエンテーション(1)	
23	Review	手術前のオリエンテーション(1)	
24	Examination	今までの復習と応用	
25	Review	入院患者への対応(1)	
26	Review	入院患者への対応(2)	
27	Examination	外国人患者に文化や宗教をたずねる練習(1)	
28	Review	外国人患者に文化や宗教をたずねる練習(1)	
29	Examination	外国人患者に文化や宗教をたずねる練習(1)	
30	Examination	学年末試験	
	テキスト	「クリスティーンのやさしい看護英会話」知念クリスティーン・上瀧真紀江著 (医学書院) プリント	
	参考書		

授 業 科 目 名	英 語 (外 書 講 読)	担 当 教 員	川 口 恵 子	
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
1	Introduction	年間授業の説明		
2	Whose Fault?	Case 1 を読む。専門英語の説明と暗記。		
3	Autopsy	Case 2 を読む。専門英語の説明と暗記。		
4	Diabetes	Case 3 を読む。専門英語の説明と暗記。		
5	Ranen	Case 4 を読む。専門英語の説明と暗記。		
6	Review/Discussion	今までの復習とまとめ		
7	Arthur Brown	Case 1 を読む。専門英語の説明と暗記。		
8	Marcus	Case 2 を読む。専門英語の説明と暗記。		
9	Betty ' s Funeral	Case 3 を読む。専門英語の説明と暗記。		
10	Review/Discussion	今までの復習とまとめ。		
11	Mr. Peters/Anna	Case 1/2 を読む。専門英語の説明と暗記。		
12	Al Cann	Case 3 を読む。専門英語の説明と暗記。		
13	Mrs. Simon	Case 4 を読む。専門英語の説明と暗記。		
14	Review/Discussion	今までの復習とまとめ		
15	Examination	前期末試験		
16	Al Kendall	Case 1 を読む。専門英語の説明と暗記。		
17	Smart Dentist	Case 2 を読む。専門英語の説明と暗記。		
18	My Mother	Case 3 を読む。専門英語の説明と暗記。		
19	Review/Discussion	今までの復習とまとめ		
20	Lucy	Case 1 を読む。専門英語の説明と暗記。		
21	Larry Larson	Case 2 を読む。専門英語の説明と暗記。		
22	Barry/Ms. Dove	Case 1/2 を読む。専門英語の説明と暗記。		
23	Mrs. Johnston	Case 3 を読む。専門英語の説明と暗記。		
24	Mrs. Johnston	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。		
25	Review/Discussion	今までの復習とまとめ		
26	Emergency Room	ER にまつわる話を読む。専門英語の説明と暗記。		
27	Emergency Room	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。		
28	Emergency Room	続きの英文を読む。専門英語の説明と暗記。		
29	Review/Discussion	これまでの復習とまとめ		
30	Examination	学年末試験		
テキスト		「The Doctor Tells the Truth」Edward E. Rosenbaum 著 (南雲堂) 「医学英語の基本用語と表現」藤枝博壽他著 (メジカルビュー社)		
参考書				

授 業 科 目 名	ド イ ツ 語 (' 0 2)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師
対 象 学 生	1 ・ 2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		放送大学ホームページ 「講義内容・担当教員」参照 [http://www.u-air.ac.jp/hp/]	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	フランス語 (' 0 2)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師
対 象 学 生	1 ・ 2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		放送大学ホームページ 「講義内容・担当教員」参照 [http://www.u-air.ac.jp/hp/]	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	スペイン語 (' 03)	担 当 教 員	放 送 大 学 講 師
対 象 学 生	1 ・ 2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		放送大学ホームページ 「講義内容・担当教員」参照 [http://www.u-air.ac.jp/hp/]	
	テキスト		
	参考書		

授業科目名	医療と医学	担当教員	栗田昌裕
対象学生	1 学年	学期	前期
単位(コマ数)	1 単位(15コマ)	必修	講義室
回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
1	医学の歴史 1	医学の起源、古代の医学、中世の医学	以下「疾」=「疾患の成り立ちと回復の促進」
2	医学の歴史 2	近世の医学、20 世紀の医学、日本の医学の歴史	
3	病気の診断	問診、診察、臨床検査、臨床診断、遺伝子診断	疾-目標 2 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う 2 疾病に対する医療と看護 A 異常状態に対する診断と看護 a)健康な状態からの変化を確認する診断過程 b)全身状態評価のための一般的検査 c)特殊な検査
4	病気の治療	治療法、現代の治療法、安静と食事と看護	疾患-目標 2 B 異常状態に対する治療と看護
5	病気の治療とリハビリテーション	リハビリテーション医学、総合的医療 目的、病気の回復、慢性疾患、施設と専門職	
6	健康と病気と医学の体系	健康、個人と社会の責任、病気の理解と分類 病気と心の働き、医学の体系	疾-目標 1 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う 1 疾病の成り立ち A 生体の反応と疾病の機序
7	病気の原因	病変と症状、病理学の分類と内容、病気の原因	疾-目標 1 A 生体の反応と疾病の機序 B 生体の回復力
8	病気の原因 2	病気の内因と外因、原因不明の病気、身体の抵抗力	疾-目標 1-A a)疾病を引き起こす内的・外的誘因 疾-目標 1-B a)ホメオスタシス b)回復力に影響する局所的・全体的因子 c)回復力に影響する心理社会的因子 d)生活環境調整
9	病気による身体変化 1	病変の分類、血行障害による病変	疾-目標 2-1 A 細胞や組織に生じる変化 d)循環障害

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
10	病気による身体変化 2	進行性の病変、退行性の病変、炎症	疾-目標 2-1-A a) 炎症 b) 変性 c) 壊死 e) 萎縮 疾-目標 2-1
11	病気による身体変化 3	腫瘍、良性腫瘍、悪性腫瘍、白血病、奇形、生体反応	g) 腫瘍 以下、「社」=「社会保障制度と生活者の健康」。
12	病気の予防 1	予防の原則、予防医学と衛生学	社-目標 3 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う 1 健康と公衆衛生 2 健康指標と予防
13	病気の予防 2	健康診断、人間ドック、習慣病の予防	B 感染症とその予防法 社-目標 3 4 保健活動
14	新しい医療システム	医療システムの概要、自由診療、保険診療、慈善医療	E 生活習慣病予防 社-目標 2 社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う 2 社会保険制度
15	健康教育と衛生統計	新しい健康教育、衛生統計、衛生政策と公衆衛生 医療関係者と施設、医の倫理	B 医療保険制度 社-目標 4 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う 1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 A 医療サービスの供給体制
テキスト		「系統看護学講座別巻 11 医学概論」日野原重明著（医学書院）	
参考書			

授 業 科 目 名	疾病の成り立ちと回復の促進	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、 疾病の分類	目標 1: 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 1 疾病の成り立ち A 生体の反応と疾病の機序、 B 生体の回復力
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、 遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療	目標 2: 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う 1 異常状態の特徴 B 異常状態に影響する固体の条件 d) 先天異常
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着	目標 2-1 A 細胞や組織に生じる変化 b) 変性 c) 壊死
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患	目標 2-1-B b) 代謝異常
5	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、 虚血、出血、ショック	目標 2-1-A d) 循環障害
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、 側副循環、リンパの循環障害	目標 2-1-A d) 循環障害
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、 炎症の各型	目標 2-1-A a) 炎症
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、 抗体と補体、能動免疫と受動免疫	目標 2-1-B a) 免疫 目標 2 2 疾病に対する医療と看護 E 人体防御機構への看護の視点 a) 人体の感染防御機構と免疫反応 b) アレルギー疾患 c) 自己免疫疾患および類縁疾患
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、 主要組織適合複合体、膠原病	目標 2-1-B- a) 免疫 目標 2-2-E c) 自己免疫疾患および類縁

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度	疾患 d) 臓器移植 目標 2-2-F 医薬品等による健康被害 a) HIV 感染症/AIDS 感染症 目標 2-1-A g) 腫瘍 f) 過形成
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防	目標 2-1-A g) 腫瘍
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について	目標 2-1-B c) 老化
13	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程	目標 2-2 A 異常状態に対する診断過程と看護 b) 全身 c) 特殊な検査
14	その他	必要に応じて上記を補う	
15	その他	必要に応じて上記を補う	
テキスト		「系統看護学講座 専門基礎 4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)	
参考書			

授 業 科 目 名	疾病の成り立ちと回復の促進	担 当 教 員	武 田 淳 史
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	循環器疾患(1)	心臓の機能と形態の基礎	目標 3 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う 2 生命維持機能の障害 C 循環機能の障害 a) 出生前の異常による心機能の障害 b) 後天的に心機能の障害を引き起こす疾患 c) 心筋の酸素欠乏による心機能の障害 d) 心機能の低下をきたした状態 e) 心臓のリズム障害 f) 血液の供給を障害する血管の疾患 g) 血圧の異常 h) 循環機能の変化を伴う体温の上昇 目標 3-2 B 呼吸機能の障害 a) 感染による気道・肺の炎症 b) 気管支喘息 c) 肺の腫瘍 d) 急性および慢性の呼吸不全 e) 呼吸機能の障害による循環機能への影響 目標 3 3 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害 D 排泄機能の障害 a) 腎・尿路の炎症 b) 腎・尿路の腫瘍 c) 腎・尿路の通過障害 目標 3 6 生命の連続性をつくりだす機能の障害 A 生殖機能をつかさどる器官の障害 a) 思春期における性的成熟の障害 b) 加齢による生殖機能や性ホルモンの変化 c) 女性生殖器の疾患 d) 乳腺の疾患 目標 3 4 内部環境調節機能の障害 A 内分泌機能の障害 a) 内分泌機能の低下 b) 内分泌機能の亢進 c) 内分泌機能の炎症 d) 内分泌機能の腫瘍
2	循環器疾患(2)	先天性心疾患について	
3	循環器疾患(3)	弁膜疾患、虚血性心疾患について	
4	循環器疾患(4)	血管疾患、高血圧症について	
5	呼吸器疾患(1)	気管、肺の構造、呼吸器感染症について	
6	呼吸器疾患(2)	閉塞性、拘束性肺疾患の総論	
7	呼吸器疾患(3)	気管支拡張症、塵肺、胸膜疾患について	
8	呼吸器疾患(4)	肺腫瘍とは	
9	腎臓疾患(1)	腎臓の構造と機能、尿路感染症について	
10	腎臓疾患(2)	腎炎、腎癌について	
11	泌尿器疾患	泌尿器関連腫瘍、炎症について	
12	生殖器疾患	奇形、婦人科疾患について	
13	内分泌疾患(1)	ホルモンの役割、下垂体疾患について	
14	内分泌疾患(2)	甲状腺、副甲状腺疾患について	
15	内分泌疾患(3)	副腎疾患について	
テキスト		「系統看護学講座 専門4 病理学」 坂本惇彦 著 (医学書院)	
参考書		「シンプル病理学」 綿貫 勤 著 (南江堂)	

授 業 科 目 名	疾病の成り立ちと回復の促進	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	消化器系の疾患 1	口腔および食道疾患：口内炎、舌がん、口腔がん、食道炎、食道静脈瘤、食道がん、等	目標 3 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う 3 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄の障害 A 食の障害 c) 咀嚼・嚥下機能の障害 B 消化管粘膜の障害と通過障害 a) 消化管の炎症 b) 消化管の腫瘍
2	消化器系の疾患 2	胃の疾患：胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、ポリープ、胃癌、等	目標 3-3-B
3	消化器系の疾患 3	腸・腹膜の疾患：虫垂炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、腸結核、アメーバ赤痢、大腸ポリープ、大腸がん、等	同上
4	消化器系の疾患 4	肝臓の疾患：肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、肝がん、等	目標 3-3 C 肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害 a) 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症 d) 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 c) 胆汁代謝・排泄の障害 d) 糖代謝の障害
5	消化器系の疾患 5	胆嚢・胆管・膵臓の疾患：胆石症、先天性胆道閉塞症、胆嚢がん、等	同上
6	血液・造血器系の疾患 1	骨髄の構造と機能、血液検査、赤血球系の疾患、貧血	目標 3 2 生命維持機能の障害 D 造血にかかわる諸機能 a) 貧血 b) 出血傾向
7	血液・造血器系の疾患 2	白血球系の異常、白血病、等	目標 3-2-D c) 白血球減少症
8	血液・造血器系の疾患 3	リンパ系および脾臓の疾患：リンパ節の疾患、免疫グロブリン合成異常、脾臓の炎症、脾腫、等	目標 3-2-D d) 造血器の腫瘍
9	脳・神経・筋肉系の疾患 1	神経系の構造と特徴。脳血管障害。脳・神経系の感染症：髄膜炎、脳炎(脳脊髄炎)、髄膜脳炎、等	目標 3 1 中枢神経機能の障害 A 脳機能の障害 a) 脳血管系の循環障害 b) 頭蓋内圧亢進を伴う疾患 e) 微生物の中枢神経への感染
10	脳・神経・筋肉系の疾患 2	脳神経系の変性疾患・脱髄疾患・腫瘍：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病、多発性	目標 3-1-A c) 神経変性・脱髄性の疾患

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
11	脳・神経・筋肉系の疾患 3	硬化症、ギランバレー症候群、等 筋肉系の疾患：進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性筋炎、等	d) 痴呆 g) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患 目標 3-1-A c) 神経変性・脱髄性の疾患 g) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患
12	耳・目・皮膚疾	中耳炎、緑内障、乳頭浮腫などの耳・目の疾患。湿疹、蕁麻疹、皮膚の腫瘍など皮膚の疾患	目標 3-1 B 感覚機能の障害 a) 視機能の障害 b) 聴機能の障害 c) 知覚の障害 5 運動機能および皮膚の障害 A 活動や行動を妨げる障害
13	骨・関節系の疾患	骨折、骨髄炎、骨粗鬆症、スポーツ障害、骨肉腫、等	d) 皮膚の疾患 目標 3-5-A a) 姿勢・運動にかかわる骨・関節・筋肉の疾患 b) 運動機能障害による残存機能とリハビリテーション c) 活動や行動が制限されることにより発生する疾患
14	その他	必要に応じて、以上を補う講義を行う	
15	その他	必要に応じて、以上を補う講義を行う	
	テキスト	「系統看護学講座 専門基礎 4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)	
	参考書		

授 業 科 目 名	微 生 物 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 ~ 5 6 7 8 9 10 11 12 ~ 15	微生物の世界 入門 細菌感染の基礎 ~ 5 6 真菌・ウイルス感染の 7 基礎 8 感染と発症 9 1st Midterm Exam 10 細菌感染の予防と治療 11 12 微生物感染を防ぐ生体 ~ 15 のしくみ	微生物の誕生と種類 / 大きさや形 / 微生物と私たちの生活 / 微生物とヒトの病気 細菌の性状 / 細菌の生理 / 細菌の遺伝 / 細菌の分類 真菌の特徴と分類 / ウイルスの特徴と分類 / ウイルス感染症 感染と発症 / 感染症成立の要因 第 1~8 回 滅菌と消毒 化学療法 免疫 抗原 抗体 免疫系細胞 補体 免疫応答 微生物免疫	2. 疾病に対する医療と看護 D. 健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 a) 微生物の分布と人体 b) 微生物の種類と特徴 c) 病原微生物の感染経路と潜伏期間 d) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性菌 e) 病原微生物に対する予防処置と感染防御 A. 生体の反応と疾病の機序 a) 疾病を引き起こす内的・外的誘引 b) 疾病を引き起こす生活習慣 E. 人体防御機構への看護の視点 a) 人体の感染防御機構と免疫反応 b) アレルギー疾患 c) 自己免疫疾患及び類縁疾患 d) 臓器移植 3. 生体の防御機構 A. 非特異的生体防御機構 a) 生体表面での防御機構 b) 食細胞とサイトカイン c) .胸腺・脾臓・リンパ節 B. 特異的生体防御反応(免疫系) a) .免疫系の細胞 b) .抗原 c) .液性免疫 d) .細胞性免疫 D. 健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 b) 微生物の種類と特徴
16 ~ 19	細菌感染症 細菌感染症	グラム陽性球菌 / 芽胞形成性グラム陽性通性嫌気性細菌 / 芽胞形成性グラム陽性嫌気性桿菌 / グラム陽性無芽胞嫌気性桿菌 / グラム陽性無芽胞桿菌 / グラム陰性球菌および球桿菌 / グラム陰性通性嫌気性桿菌 / グラム陰性好気性桿菌 / グラム陰性らせん状細菌 / スピロヘータ / グラム陰性嫌気性桿菌 / 抗酸菌 / 放線菌 / マイコプラズマ / リケッチア / クラミジア	
20	真菌感染症	接合菌類 / 子囊菌類 / 担子菌類 / 不完全菌類 / 分類の不明な真菌	
21 ~ 23	ウイルス感染症	DNA型ウイルス / RNA型ウイルス / 肝炎ウイルス / スローウイルス感染症およびプリオン病	
24 25 26 27 28 29 30	原虫・寄生虫 感染症 2nd Midterm Exam 特殊な患者における感染症 変貌する感染症とその 対策	原虫 / 蠕虫 第 16~25 回 院内感染症 / 新生児感染症 / 妊婦の感染症 / 移植患者の感染症 / 癌患者の感染症 / 高齢者の感染症 MRSA / VRE / 緑膿菌 / 多剤耐性結核菌 / 腸管出血性大腸菌 O157 感染症と HUS / C 型肝炎ウイルス / レジオネラ / クリプトスポリジウム属原虫 / HIV (ヒト免疫不全ウイルス) / プリオン病 ~ 総まとめ ~	F. 医薬品等による健康被害 a) HIV 感染症 / AIDS b) ウイルス性肝炎 c) クロイツツフェルト・ヤコブ病
	テキスト	「系統看護学講座 6 微生物学」天児和暢、南嶋洋一 (医学書院)	
	参考書		

授業科目名	薬理学	担当教員	栗田昌裕
対象学生	2 学年	学 期	通 年
単位 (コマ数)	2 単位 (30 コマ)	必 修	講義室
回	講義題目	教 科 内 容	国家試験出題基準
1 2	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識、薬物治療に影響を与える因子 投与経路と薬の吸収・分布・代謝・排泄	〔必修問題〕 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う 4 薬物治療に伴う反応 A おもな薬物の作用と副作用 h)麻薬
3	麻酔薬と中枢興奮薬	全身麻酔薬、局所麻酔薬、中枢興奮薬	〔必修問題〕 -4- A a) 抗菌薬 精神看護学 目標 2 精神看護の基本概念や精神医学の診断・治療を理解し、看護援助を実践できる能力を問う 3 精神科治療と看護 C 身体療法 a) 薬物療法
4 5	解熱鎮痛薬・抗炎症薬 向精神薬と抗痙攣薬	解熱鎮痛薬・抗炎症薬、麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬 向精神薬、抗痙攣薬 (抗てんかん薬)	〔必修問題〕 -4- A c) 強心薬・抗不整脈薬 〔必修問題〕 -4- A c) 強心薬・抗不整脈薬 d) 狭心症治療薬
6 7	筋弛緩薬と抗パーキンソン薬 自律神経薬	筋弛緩薬、抗パーキンソン薬 自律神経の基礎知識、コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬 (付：胃酸分泌抑制薬)、アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬	〔必修問題〕 -4- A e) 降圧薬・昇圧薬
8 9	オータコイド 強心薬	オータコイドの種類とその作用、プロスタグランディンの臨床応用 強心薬 (ジギタリス) の投与方法、ジギタリスの副作用とその対策	〔必修問題〕 -4- A h) 副腎皮質ステロイド薬 g) 糖尿病治療薬
10 11 12	抗狭心症薬と抗不整脈薬 利尿薬 降圧薬	抗狭心症薬、抗不整脈薬 利尿薬、利尿薬の臨床的応用 降圧薬、抗動脈硬化薬	〔必修問題〕 -4- A b) 抗がん薬
13 14	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬、駆虫薬 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬	〔必修問題〕 -4- A b) 抗がん薬
15 16	血液病薬 抗癌薬	貧血の薬、止血薬、抗血栓療法薬 開発と化学療法、副作用と組み合わせ	〔必修問題〕 -4- A b) 抗がん薬
17 18	化学療法薬 免疫療法薬	化学療法薬、抗ウイルス剤 免疫について、免疫療法	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
19	消毒薬	滅菌・消毒法、消毒薬の濃度と殺菌速度	
20	呼吸器病薬	呼吸器病薬、抗結核薬	
21	皮膚疾患に用いられる薬剤	皮膚疾患に用いられる薬剤	
22	放射線診断・治療薬	造影剤、放射性医薬品	
23	ショックに用いられる薬剤	ショックの原因別分類、ショックの対応と薬剤	
24	点眼薬。輸液	点眼薬、輸液の目的、輸液剤	
25	毒物および解毒剤	中毒の状態、急性中毒に対する処置、解毒剤、排泄と吸着	
26	代謝賦活薬。ビタミン剤	代謝賦活薬・ビタミン剤	
27	小児・妊婦・老年者に対する薬物療法	小児の薬物療法、妊婦の薬物療法、老年者の薬物療法	
28	嗜好品の薬理と薬物相互作用	嗜好品の薬理、薬物相互作用	
29	薬剤の安定性：保存	薬剤の保存、薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）	【必修問題】 -4 B 医薬品の安全対策 a) 混合の可否 b) 禁忌 c) 保存方法
テキスト		「新版看護学全書 6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メジカルフレンド社)	
参考書			

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		リハビリテ - ションの定義と理念	
2		リハビリテ - ションの歴史	
3		リハビリテ - ションの構成と地域リハビリテ - ション 医学的リハビリテ - ションの流れと対象 リハビリテ - ション医療関連職種とチ - ムワ - ク	必修問題 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 4 おもな看護活動展開の場と看護の機能 D 関連職種との連携 a) 関連する職種 b) チーム医療 成人看護学 目標 3 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う 3 障害への適応と社会復帰への看護 A 障害受容への援助 B 障害の改善と克服への援助 C 社会参加への援助 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別 疾病の特性についての理解を問う 5 運動機能および皮膚の障害 A 活動や行動を妨げる障害 a) 姿勢・運動にかかわる骨・関節・筋肉の疾患 同上 疾 - 目 3 1 中枢神経機能の障害 A 脳機能障害 a) 脳血管系の循環障害 c) 神経変性・脱髄性の疾患 g) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患 成人看護学 目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う 8 運動機能障害をもつ患者の看護 A 観察とアセスメント a) 四肢長の測定法
4		障害論 障害の 3 つのレベル 障害者心理	
5		障害学 1 (関節拘縮、関節変形)	
6		障害学 2 (筋萎縮、神経麻痺)	
7		評価学 1 (患者の情報、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力測定)	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
8		評価学 2 (協調性検査、高次脳機能検査、言語障害検査、心理テスト、日常生活活動検査)	b) 関節可動域の測定法 c) 筋周径の測定法、徒手筋力検査法 成人-目 4-8-A
9		治療学 1 (運動療法、物理療法、作業療法)	d) 日常生活動作の観察 疾-目 3-5-A b) 運動機能障害による残存機能とリハビリテーション 成-目 4-8 B おもな看護
10		治療学 2 (補装具療法)	d) 関節可動域訓練の適応と原則 e) 筋力増強訓練の適応と原則 成-目 4-8-B o) 負荷・歩行補助具・自助具の適応
11		脳卒中のリハビリテーション 1 (分類、障害)	疾-目 3-1-A a) 脳血管系の循環障害
12		脳卒中のリハビリテーション 2 (発作直後の処置、急性期の看護、臥位訓練、基本的訓練、)	同上
13		脳卒中のリハビリテーション 3 (起居・立ち上がり訓練、移乗動作訓練、歩行動作訓練、階段昇降動作訓練、日常生活動作訓練)	基礎看護学 目標 2 基本的看護技術についての理解を問う A 環境を整える技術 F 活動・運動の援助技術 a) 活動・運動の能力のアセスメント b) 体位変換 c) 床上移動 d) 車椅子への移動・移送
14		脳卒中のリハビリテーションの実際 1	成-目 4-8-B d) 関節可動域訓練の適応と原則 e) 筋力増強訓練の適応と原則
15		脳卒中のリハビリテーションの実際 2	m) 片麻痺における日常生活動作 <ADL> の訓練と介助方法 同上
	テキスト	プリント配布	
	参考書		

授 業 科 目 名	救 命 救 急 医 療	担 当 教 員	北 林 司
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	救急医療と看護 救急患者とその家族 救急患者に関する情報収集とアセスメントの視点 重篤な病態と看護 特殊な病態と看護 救命救急室における看護 救命時の看護 心肺脳蘇生法演習 救命救急室における看護活動演習	救急医療の変遷と今後の課題を理解する。 救急医療における看護の役割を理解する。 救急患者の身体的・精神的・社会的特性を理解する。 救急患者の家族の状況を把握する必要性と、適切な看護介入を理解する。 生命の危機的状況と判断基準を理解する。 救急時の検査と優先順位を理解する。 緊急手術の適応と看護介入を理解する。 重篤な病態と看護を理解する。 特殊な病態と看護を理解する。 救命救急室における看護の役割を理解する。 トリアージの方法を理解する。 心肺脳蘇生法を理解する。 シミュレーターを用いて適切な心肺脳蘇生法が実践できる。(気道確保、人工呼吸、心臓マッサージなど) 救命救急室におけるトリアージが実践できる。(複数の患者収容を想定して)	目標3:成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 A. 救命救命時の看護 a) 緊急性と原因のアセスメント b) 心肺蘇生法 c) 気管切開・気管内挿管時の援助 d) 急性中毒への対処 e) 外相・熱傷・骨折の応急処置 f) 危機的状態への精神的支援 必修問題 . 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 3. 主要疾患と看護 C. 外傷 c) 外傷性ショック 基礎看護学 目標2: 基本的看護技術についての理解を問う。 3. 診療に伴う技術 E. 災害看護 a) トリアージ
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	看 護 学 の 基 礎	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子
対 象 学 生	1 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	基礎看護学とは	看護学教育における基礎看護学の位置づけについて学ぶ。 看護の本質、看護師とはどんな職業か、および看護職の果たす役割など、保健師助産師看護師法について学ぶ。	目標1 1看護の基本となる概念 A 看護の本質 a 対象、b 役割、c 機能 必修問題目標 5保健師助産師看護師法 A 看護職員の業務と義務 a 保健師助産師看護師の業務、b 看護師に禁止されている業務、c 守秘義務、d 業務従事届け
2	看護とは		
3	健康とは	健康の概念と健康成立の条件について学ぶ。	目標1 1看護の基本となる概念 C 人間にとっての健康 a 健康のとらえ方 b 健康に影響を与えるもの
4	健康とは	健康観について学習し、自己の健康に対する考えを全体としての人間、基本的ニーズなどについて理解する。	B 看護の対象としての人間 a 人間のとらえ方 b 人間と環境 必修問題目標
5	対象としての人間		
6	対象としての人間	社会および文化と人間の関わりについて学ぶ。	1人間の特性 a 基本的欲求、b 社会的欲求 目標1
7	人間の生活	生活体としての人間について学ぶ。 生活習慣と健康	1看護の基本となる概念 D 人間の生活 a 生活のリズムと健康のかかわり、b 生活習慣と健康のかかわり、c 生活の要素と健康のかかわり(食、排泄、清潔、衣、活動・運動、休息、睡眠、性、学習・遊び、仕事、社会活動) d QOL 必修問題目標
8	人間の生活		
9	QOL	QOL	1人間の特性 B 患者の特性 a QOL、b 患者ニーズ、c 健康に対する意識、d 疾病に対する意識、e 疾病・傷害の受容家庭 疾病の成り立ちと回復促進 目標1
10	健康障害とは	健康障害と疾病の成り立ちおよび生活への影響等について学ぶ。	1. 疾病の成り立ち C 個体差と個人の反応
11	患者と家族	家族関係、疾病が与える心理社会的影響について学ぶ。	a 疾病およびその症状に対する反応、b 生活への影響に対する反応、c 疾病による生活規制・隔離・疎外に対する反応
12	疾病と病い	医療人類学や民俗学からみた疾病と病いについて学ぶ。	必修問題目標
13	看護の歴史	看護の原点について学ぶ。	3患者と家族
14	看護の歴史	看護の発展と近代化について学ぶ。	A 家族の機能
15	まとめ	看護とは、人間とは、健康とはについて整理する。	a 家族関係、b 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響 目標3
16	保健医療の場と看護活動	包括的保健医療の考え方、プライマリーヘルスケアなどについて学ぶ。	1看護の機能と役割を支える仕組み
17	保健医療の場と看護活動	看護職の働く場所とチーム医療などについて学ぶ。	A 看護活動の場 a 地域における看護活動、

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
18	継続看護	看護の継続性について学ぶ。	b 医療施設における看護活動、c 保健福祉施設施設における看護活動 必修問題目標1 5 保健師助産師看護師法 B 看護職員 a 養成制度、b 就業状況 必修問題目標 4 おもな看護活動展開の場と看護の機能 A 医療施設 a 病院、b 診療所、c 助産所、d 老人保健施設 D 関連職種との連携 a 関連する職種、b チーム医療、c 看護の役割 目標3 1 看護の機能と役割を支える仕組み B 継続看護 a 施設内から在宅への継続、b 退院計画および退院指導、c 経時的に変化に対する継続看護 C 保健医療福祉の連携
19	保健医療福祉の連携	チーム医療、ゴールドプラン、訪問看護制度などについて学ぶ。	a 他職種の役割 b 他職種との連携
20	看護職のこれから	専門看護師・認定看護師など看護の専門性について学ぶ。	E 専門職業団体の活動 a 専門職集団としての役割と機能
21	専門職業団体の活動、看護行政、国際協力	看護の質の向上、看護の国際化などについて学ぶ。	F 看護行政 a 看護職員の確保、b 看護職員の質の向上、c 看護実践の質の向上、 G 国際協力 a 国際交流、b 国際機関への協力
22	看護管理	看護提供システム（チームナーシング・プライマリナーシングなど）、クリティカルパス、事故管理・防止システムについて学ぶ。	D 看護管理 a 看護提供システム（チームナーシング、プライマリナーシング、機能別看護）、b クリティカルパス、d 事故管理・防止システム
23	リーダーシップ	リーダーシップとメンバーシップについて学ぶ。	c リーダーシップとメンバーシップ 必修問題目標1 4 看護倫理
24	看護倫理	看護師の倫理規定、インフォームドコンセントなどについて学ぶ。	A 看護の倫理
25	看護倫理	患者の権利、意思決定など事例を通して学習する。	a 個人の尊厳、b 患者の権利、c 自己決定権、d インフォームドコンセント、e ノーマライゼーション 必修問題目標 C 人間の死
26	医療の中の死	人間の死、脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死などについて学ぶ。	a 死の三徴候、b 脳死
27	看護について考える	「看護をどう考えるか」インタビューや文献を通して、自己の考えをまとめる。	
28	看護について考える	発表	
29	看護について考える	発表	
30	まとめ	看護学の基礎で学習したことのまとめをする。	
テキスト		「看護学全書 基礎看護学 看護学概論」小池明子他（メヂカルフレンド社）	
参考書			

授 業 科 目 名	看護理論の基礎	担 当 教 員	須 藤 絹 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	看護理論とは	看護理論とは	
2	ナイチンゲル	フロレンス・ナイチンゲルの看護理論	
3	ヘンダソン	バジニア・ヘンダソンの看護理論	
4	ペプロウ	ヒルデガド・E・ペプロウの看護理論	
5	オレム	ドロセア・E・オレムの看護論	
6	ロイ	シスター・カリスタ・ロイの看護理論	
7	グループ討議	看護理論を一つ選び、その枠組みと特徴についてグループ討議する。	
8	グループ討議	同上	
9	グループ討議	同上	
10	グループ討議	同上	
11	発表	グループ毎に発表する。	
12	発表	同上	
13	発表	同上	
14	まとめ	看護理論の補足	
15	まとめ	看護理論の補足	
	テキスト	「やさしく学ぶ看護理論」黒田裕子（日総研）	
	参考書		

授 業 科 目 名		基 礎 看 護 技 術	担 当 教 員	金 古 さ つ き
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	看護技術とは	看護技術とは		一般：目標2 基本的日常生活援助技術 A環境を整える技術 a 環境の整備 b 病床の整備 必修： -3 安全・安楽を守る技術 A療養環境 aベッド b病室環境 一般：E衣生活の援助技術 a衣生活を調整する能力の アセスメントと援助方法、b 病衣の選択、c寝衣の交換 必修： -1基本技術 Aコミュニケーション a言語的コミュニケーション b非言語的コミュニケーション 一般：目標2 1共通技術 A人間関係を成立し発展させるための技術 aコミュニケ - ション技術 必修： -2日常生活援助技術 C清潔 a入浴の介助 b清拭 c口腔ケア d洗髪 e部分浴 f陰部洗浄 g整容 h寝衣交換 一般：目標2-2基本的日常生活援助技術 D身体の清潔の援助技術 a清潔行動のアセスメントと援助方法 b身体各部の清潔の援助方法 c褥瘡の予防 必修： -2 日常生活援助技術 B排泄 a床上排泄 b導尿 c浣腸 d摘便 e失禁のケア fストマ造設患者のケア 一般：目標2 C排泄の援助技術 a排泄行動のアセ
2	環境	人間をとりまく環境を理解し、環境調整時における看護師の役割を学ぶ。		
3	病床の整備	病床の意義・ベッドメ - キングの種類と方法などについて学ぶ。		
4	衣生活	衣生活の意義・リネン管理における看護師の役割について学ぶ。		
5	コミュニケ - ション	コミュニケ - ションの技法と看護への適応について学ぶ。		
6	コミュニケ - ション	ロ - ル・ブレイングについて学習し、人間関係の疑似体験をする。		
7	清潔	皮膚粘膜の解剖・生理の知識を基に清潔の意義・種類・方法などについて学ぶ。対象の生活習慣を把握し、清潔の適切な援助方法および褥瘡の予防を考える。		
8	清潔	全身清拭・部分浴・洗髪について演習し、評価する。		
9	清潔	口腔ケア・陰部ケアなどについて演習し、評価する		
10	排泄	排泄の生理と観察法について学ぶ。個人の排泄パターンを知り、それが変調をきたした際の援助法について考える。		
11	排泄	排泄障害をきたした際の援助技術について学ぶ。		
12	排泄	排泄の援助技術(便尿器の与え方・浣腸・導尿等)について演習し、評価する。		

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
13	包帯	対象者に適した材料で的確な包帯を装着する技法を習得する。	<p>スメントと援助方法 b 排泄物の観察 c 自然な排泄を促す援助方法 d 床上排泄の援助方法 e 浣腸 f 導尿 一般：目標3 疾病の成り立ちと健康の促進 3) 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄の障害 D 排泄機能の障害 a 便の生成・排泄の異常 b 排泄部位の変更による障害</p> <p>一般：目標2-3 診療に伴う技術 B 治療処置 h 包帯</p>
14	まとめ	基礎看護技術 で学んだことの整理	
15		実技試験	
	テキスト	「新版看護学全書基礎看護学2基礎看護技術」内藤寿喜子他（メヂカルフレンド社） 「図解自立支援のための患者ケア技術」初山泰弘（医学書院） 「NANDA看護診断 定義と分類」北米看護診断協会（医学書院） 「看護データブック」神田清子（医学書院）	
	参考書		

授業科目名	基礎看護技術	担当教員	保坂さえ子
対象学生	1 学年	学期	後 期
単位(コマ数)	2 単位(30 コマ)	必修	講義室
回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
1	バイタルサインズ	診療時の看護師の役割を学ぶ。観察の技術として重要なバイタルサインズ(体温・脈拍・心拍・血圧・呼吸等)の意義について学ぶ。	一般：目標2基本的看護技術 3 診療に伴う技術 A 診察・検査 a 診察・検査時の看護師の役割 b 診察・検査を受ける対象者の心理 必修：看護技術の基礎的知識 -1基本技術 Bバイタルサイン a 観察と測定 必修：-2病態と看護 A 症状と看護 a 発熱 必修：-4診療に伴う看護技術 H 救急救命処置 a 気道の確保 b 人工呼吸 c 心マッサージ d 止血 e 体温の保持 一般：D 生命の危機に関わる技術 a 生命徴候のアセスメントと援助方法 b 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 d 循環管理 d 保温 e 電法 f 心肺蘇生術(気道確保、人工呼吸、心マッサージ) g 止血法
2	バイタルサインズ	バイタルサインズの測定法と救急法について学ぶ。	
3	バイタルサインズ	バイタルサインズについて演習し、評価する。あわせて記録や評価のしかたについても学ぶ。 救急法を学び、心肺蘇生法を演習する。	
4	電法	電法の基礎的知識と方法について学び、電法による変化についても演習する。	必修：-4 E 電法 a 電法の種類と適応 b 温電法の方法 c 冷電法の方法
5	吸引と吸入	吸引と吸入の方法と効果的な援助方法について学ぶ。	必修：F 酸素吸入 a 酸素吸入時の原則 b 酸素ボンベの取り扱い c 酸素流量計の取り扱い d 鼻腔カニューラ e マスク 必修：G 吸引 a 口腔・鼻腔吸引 b 気管内吸引 c 体位ドレナージ 一般：目標2-3 B 治療・処置 a 治療・処置時の看護婦の役割 、b 治療・処置時の対象者の心理 f 吸引 g 酸素吸入
6	姿勢と体位	安楽な体位と動作の経済性を高める技術について学ぶ。	必修：-2日常生活援助技術 E ボディメカニクス a 体位 b 体位変換の基本 一般：目標2 1共通基本技術 D 効率的で安楽な動きを作り出す技術 a ボディメカニクス b 安楽な姿勢
7	姿勢と体位	姿勢と体位・移動技術について演習する。	
8	活動と休息	睡眠の生理を学び個人の睡眠習慣を把握する。睡眠と安息の援助方法を考える。レクリエーションおよび身体運動についても学ぶ。	必修：-2日常生活援助技術 D 活動・休息 a 睡眠 b 移動・移送 c 廃用性症候群の予防 d 褥瘡の予防 一般：2基本的日常生活援助技術 F 活動・運動の援助技術 a 活動・運動の能力のアセスメントと援助方法 b 体位変換 c 床上移動 d 車椅子への移動・移送 e 輸送車への移動・移送

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
9	身体各部の計測	身長・体重・胸囲・腹囲などの身体機能の計測の方法について学ぶ。	fレクリエ-ション G 休息・睡眠の援助技術 a 休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法 b 安楽な休息・睡眠を促す方法 c 睡眠障害とその援助方法 一般：1 共通基本技術 E 観察技術 a 身体面のアセスメント
10	栄養と食事	栄養と食事の生理的意味を理解するとともに、対象の食生活習慣を把握する。 食事の適切な援助方法について学ぶ。 さまざまな栄養法の実際について学ぶ。	必修： -2 日常生活援助技術 A 食事 a 食事の環境 b 食事介助の方法 c 誤嚥の予防 一般：2 基本的日常生活援助技術 B 食生活の援助技術 a 健康な食生活 b 栄養状態の評価 c 摂食行動のアセスメントと援助方法 d 病人の食事 e 経管栄養 必修：4 診療に伴う看護技術 A 栄養補給 a 胃管挿入 b 経管栄養法 c 経静脈栄養法
11	与薬	薬物療法についての的確な知識と技術を習得し、看護師の役割について学ぶ	必修： -4 B 薬物療法 a 与薬方法 b 吸収・分布・代謝・排泄の機序 C 輸液の管理 a 刺入部位の観察 b 滴下速度 c 輸液ポンプの取り扱い d 安全・安楽
12	与薬	輸液の準備と介助法、皮内注射・皮下注射・筋肉注射について演習する。	D 採血 a 使用物品 b 穿刺部位 c 手技
13	検査、安全	検査時における看護婦の役割について学ぶ。 安全工学におけるフェイル・セイフの考え方を紹介し、医療における安全性について考える。感染予防では、手の衛生の3つの側面について学習する。	一般：3 診察に伴う技術 B 治療・処置 c 与薬 d 穿刺 e 洗浄 A 診察・検査 c 検査時の看護 1 共通基本技術 C 安全を守るための技術 a 感染予防 b 無菌操作 c 事故の防止 必修： -3 B 医療安全対策 a 転倒 b 誤薬の防止 c 患者誤認の防止 C 院内感染防止対策 a スタンダードプリコーション (標準予防策) b 手洗いの方法 c 無菌操作 d 滅菌と消毒の方法 e 針刺・切創の防止 f 感染性廃棄物の取り扱い
14	実技試験	実技試験	
	テキスト	<p>「新版看護学全書基礎看護学2基礎看護技術」内藤寿喜子他(メヂカルフレンド社)</p> <p>「図解自立支援のための患者ケア技術」初山泰弘(医学書院)</p> <p>「NANDA看護診断 定義と分類」北米看護診断協会(医学書院)</p> <p>「看護データブック」神田清子他(医学書院)</p>	
	参考書		

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 技 術	担 当 教 員	保 坂 さ え 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	共通技術とは	基礎看護技術における共通技術について学ぶ。	目標2 1共通基本技術 B 人間の成長を促すための技術 c カウンセリング技術 a 相談・指導 b 教育 E 観察の技術 a 身体面のアセスメント b 精神面のアセスメント F 記録・報告 a 記録・報告の目的 b 記録の種類 c 記録・報告の条件
2	カウンセリング	看護におけるカウンセリングの位置づけとその技法について学ぶ。 カウンセラーに求められる基本的態度およびリラクゼーションの方法について学ぶ。	
3	医療における死	民俗学からみた死、安楽死裁判を通しての死などから死について考える。 悲嘆のプロセスおよび死後の処置の方法について学ぶ。	
4	健康教育	健康教育の歴史、教育診断的アプローチについて学ぶ。 健康教育における看護婦の役割について学び、糖尿病教育の例を紹介する。	
5	観察	観察の技術、方法、用語と観察の優先順位、長所と欠点について学ぶ。	
6	観察	観察の方法を事例を通して学ぶ。バイタルサインの測定・評価について演習する。	
7	記録	記録の重要性、記録の種類、記録上の注意について学ぶ。 記録の実際、管理、報告、審査等について学ぶ。	
8	記録	プロセスレコ - ドの方法を事例を通して学ぶ。	
9	事例展開	事例を通して看護の実際を学習する。	
10	事例展開	同上	
11			
12	発表	グループ毎に発表する。	
13	発表	同上	
14	まとめ	事例から学んだことの整理	
15	まとめ	共通技術で学んだことの整理	
	テキスト	「新版看護学全書基礎看護学2基礎看護技術」内藤寿喜子他（メヂカルフレンド社） 「図解自立支援のための患者ケア技術」初山泰弘（医学書院） 「NANDA看護診断 定義と分類」北米看護診断協会（医学書院） 「看護データブック」神田清子他（医学書院） 「情報ガイドブック」古橋洋子（メヂカルフレンド社） 「ハンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント」渡邊トシ子（廣川書店）	
	参考書		

授 業 科 目 名		看 護 過 程 論	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	看護過程	看護過程を学習する意義について学ぶ。		目標1 2看護の展開	
2	看護過程	看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。			
3	看護過程	問題解決法について学ぶ。			
4	看護過程	クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。			
5	看護過程	看護過程の概念の変遷について学ぶ。			
6	看護過程	看護診断について学ぶ。			
7	データ	主観的データ・客観的データについて学ぶ。			
8	アセスメント	情報の分析について学ぶ。		A対象者の全体像の把握 a情報の収集と分析	
9	アセスメント	一次アセスメント・フォーカスアセスメントについて学ぶ。		b問題の明確化	
10	看護診断	看護診断過程について学ぶ。		B目標設定	
11	看護診断	看護診断過程について学ぶ。		a優先度の決定	
12	患者目標	患者目標の設定の仕方について学ぶ。		b患者との目標の共有 c目標達成とその時期の設定	
13	計画立案	計画立案について学ぶ。		C計画	
14	実施・評価	実施、評価について学ぶ。		a行動計画の立案 D期待される結果の明確化	
15	まとめ	看護過程の一連の過程を復習する。		E実施 a手段の選択、b対象者への説明と了解、c看護の実施と対象者の反応の確認	
	テキスト	「NANDA看護診断 定義と分類」北米看護診断協会（医学書院） 「看護データブック」新井治子他（医学書院） 「情報収集ガイドブック」古橋洋子（メヂカルフレンド社） 「実践看護アセスメント」渡邊トシ子（廣川書店） 「関連図の書き方」（ナースングカレッジ）			
	参考書				

授業科目名	在宅看護論の基礎		担当教員	吉岡敏子	
対象学生	1 学年		学期	後 期	
単位 (コマ数)	1 単位 (15 コマ)		必修	講義室	
回	講義題目	学 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準		
		* 看護における在宅看護の位置づけを学ぶとともに、在宅看護を必要とする社会的背景や、その役割を学ぶ。			
1	在宅看護の概念	在宅看護の目的と役割、位置づけ			
2	地域看護と在宅看護	地域看護とは / 地域看護における在宅看護の位置づけ			
3	在宅ケアと在宅看護	在宅ケアとは / 在宅ケアの中での在宅看護			
4	在宅看護の歴史	欧米における在宅看護の歴史について			
5	在宅看護の歴史	日本における在宅看護の歴史について			
6	在宅看護の現状	高齢社会と疾病構造について	必修 - 3 患者 (在宅療養者) と家族		
7	在宅看護の現状	家族構成の変化、高齢者の保健・医療・福祉施策	A . 家族の機能		
8	在宅看護の現状	介護老人と家族介護	a) 家族関係 b) 疾病が療養者・家族に与える心理社会的影響		
9	在宅看護の場	行政・医療機関が行う訪問看護	必修 - 4 おもな看護活動展開の場と看護		
10	在宅看護の場	訪問看護ステーション・民間の訪問看護	B . 保健所・市町村保健センターにおける看護活動		
11	在宅における看護の特殊性	対象のライフサイクルに応じた看護の、在宅における持続性	a) 保健所の業務 b) 保健センターの業務		
12	施設看護と在宅看護	それぞれの特徴と看護の継続性	C . 在宅看護 a) 訪問看護ステーション b) 継続看護		
13	在宅看護の基本	在宅看護の機能・対象・展開について	在宅看護論目標 - 2		
14	在宅療養者の権利保障	ノーマリゼーション / アドボカシー (権利擁護)	A . 施設と在宅を結ぶ看護 B . 施設内看護と在宅看護の機能の相違と特徴		
15	まとめ と 評価	* 途中、在宅看護に関するトピックスをグループで調べ、発表の場を設定したいと考えています。	在宅活動論 目標 - 3		
	テキスト	「在宅看護論」杉本正子 眞船拓子編集 (廣川書店)			
	参考書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 「国民の福祉の動向」(厚生統計協会)			

授 業 科 目 名	在宅看護活動論		担 当 教 員	吉 岡 敏 子	
対 象 学 生	2 学 年		学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)		必 修	講義室	
回	講 義 題 目	学 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準		
1	在宅看護活動とは	* 前期は主に、在宅看護を展開するための看護活動の基本的理解をするとともに、家族支援と関係機関との連携を学ぶ。 1年次の概要復習(在宅看護の目的・役割等)	<p>目標 1-1 在宅看護の対象者とその生活</p> <p>A. 在宅看護の対象者</p> <p>a) 疾病を持つ人と家族</p> <p>b) :障害を持つ人と家族</p> <p>c) :生活自立が困難な人と家族</p> <p>B . 対象者の生活</p> <p>a.)生活様式と価値観</p> <p>目標 1 - 2 看護の継続性</p> <p>A . 施設と在宅を結ぶ看護</p> <p>a.) 退院計画、b)退院指導</p> <p>c) 継続看護を担う部署と職種、 d)施設と地域の連携システム</p> <p>B. 施設内看護と在宅看護の機能の相違と特徴</p> <p>a) 場の違いによる看護機能の特徴、 b)生活の場の選択条件</p> <p>目標 1-3 在宅看護の特徴</p> <p>A . 生活の自立支援</p> <p>a) 役割の確立、 b)自己決定</p> <p>c) セルフケア、 d)自立支援</p> <p>e) 物品の利用と工夫</p> <p>f) 権利擁護 <アボガ- ></p> <p>C . 生活の中で起こる問題の予測と予防</p> <p>D . 家族介護者の理解と健康支援</p> <p>目標 - 3 - B . 病状・病態の変化の予測と予防</p> <p>a) 病状経過の予測、</p> <p>b) 感染防止(結核、MRSA 感染症、疥癬、HIV 感染症、/AIDS)</p> <p>C . 生活の中で起こる問題の予測と予防</p>		
2	在宅療養者と家族	家族の機能と変遷			
3	在宅療養者と家族	現代日本の家族			
4	在宅療養者と家族	家族をとらえる視点			
5	在宅療養者と家族	介護の実態と家族支援			
6	在宅療養者と家族	同上			
7	在宅ケアシステム	在宅ケアの社会資源とシステム			
8	在宅看護の場 .	在宅療養者の生活とその構造 在宅看護活動と要介護量 家族の介護力			
9	その構造				
10	同上				
11	在宅看護と経済的側面	在宅療養の診療報酬体系、経済的負担			
12	在宅看護と法規	保助看法、医療法、老人保健法、地域保健法			
13	在宅ケアと法規	保健・医療・福祉関係機関の法的位置づけ			
14	在宅ケアと職種	保健・医療・福祉関係職種とその連携			
15	前半のまとめ 中間試験	* 在宅看護に関する課題を取りあげグループワークで調査し、発表の場も設けたいと考えています。 * 後期は主に、在宅における看護過程の展開を中心にそのプロセスを学ぶ。			
16	訪問看護過程の展開	在宅看護における看護過程、看護計画の位置づけ			
17	訪問看護過程の展開	アセスメント、基本的情報、内容の分析評価			
18	訪問看護過程の展開	事例を用いて演習			
19	訪問看護過程の展開	事例を用いて演習			

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
20	訪問看護過程の展開	事例を用いて演習	a)転倒 b)窒息 c)熱傷 d)閉じこもり e)虐待の防止
21	訪問看護過程の展開	看護計画の立案	f)災害時の被災予防 g)介護力不足の予測
22	訪問看護過程の展開	看護計画の立案	D. 家族介護者の理解と健康支援
23	介護保険法と在宅看護	介護保険法導入の背景	a) 家族介護者のケアメント
24	介護保険法と在宅看護	介護保険法下における現状と在宅看護の役割	b) 家族関係の調整 c) 介護方法の指導 d)家族介護者の健康
25	在宅ケアチーム	在宅ケアチームの支援の実際	E. チームケアの重要性
26	在宅ケアチーム	在宅ケアチームの支援の実際	a) 在宅ケアの意義 b) 他職種との連携・協働
27	ケアマネジメント	ケアマネージャーの法的位置づけ、機能、役について	F. ケアマネジメントと看護の役割
28	ケアマネジメント	ケアマネージャーの法的位置づけ、機能、役について	a)ケアマネジメントの概念 b)ケアマネジメントの過程 c)社会資源の活用 d)サービスの調整 e)介護保険との関連
29	まとめ		
30	試験	看護過程の展開は、実際に3年の臨地実習で使用する看護記録様式を实际用いてそのプロセスを学びます。	
	テキスト	「在宅看護論」杉本正子 眞船拓子編集（廣川書店）	
	参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「国民の福祉の動向」（厚生統計協会）	

授 業 科 目 名	在宅看護活動論	担 当 教 員	吉 岡 敏 子
対 象 学 生	2 学 年	学 生 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	学 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		* 在宅における生活支援技術を理解するとともに、医療管理を必要とする人と状態に合わせた看護を学ぶ。	
1	在宅看護活動とは	在宅看護活動の概念(目的・役割等) 訪問看護とその準備(必要物品・服装等について)	目標 2 - 1 . 在宅における生活支援の方法と技術 A . 食 a) 食事摂取能力のｱｽｽﾞﾓﾝﾄ b) 摂食障害時・c) 嚥下障害時の援助
2	在宅看護とリハビリテーション	リハビリテーションの特徴と援助、ADL / IADL	B . 排泄 a) 排泄障害のｱｽｽﾞﾓﾝﾄ b) 排泄補助用具
3	訪問看護過程とアセスメント	バイタルサイン、心身状態と生活リズム、ライフステージと発達課題、社会との交流	c) 尿失禁時・d) 便失禁時の援助
4	生活支援の方法と技術	摂取と排泄に関する援助	C . 清潔 a) 清潔のｱｽｽﾞﾓﾝﾄ b) 入浴・c)清拭・d) 足浴・e)口腔ケア
5	生活支援の方法と技術	清潔と移動に関する技術	目標 2 - 2 . 在宅における医療管理を必要とする人と看護 A . 在宅医療と社会制度 B . 薬物療法 C . 在宅酸素療法 a) 対象者 b) 機器の種類 c) 日常生活の注意と工夫 d) 生活範囲の拡大 e) 指導と安全管理
6	在宅医療と社会制度	在宅医療と訪問看護師の医療行為	D . 在宅人工呼吸療法 対象者 b) 人工呼吸器の構造と使い方 c) 気道内のケア d) 指導と安全管理
7	在宅医療 - 薬物療法	服薬状況の把握と管理、各専門職との連携	e) QOLの向上 f) 社会資源の活用
8	在宅医療管理を必要とする人と看護	在宅酸素療法・人工呼吸療法	F . 在宅経管・経腸栄養法 a) 対象者 b) 栄養剤の種類と特徴 c) 栄養評価 d) 合併症の予防 e) 指導と安全管理 f) 医師との連携
9	在宅医療管理を必要とする人と看護	在宅経管栄養・経腸栄養法 / 在宅中心静脈栄養法	G . 在宅中心静脈栄養法 a) 対象者 b) 中心静脈栄養法 c) 栄養評価 d) 合併症の予防 e) 医師との連携

回	講義題目	学 科 内 容	国家試験出題基準
10	在宅医療管理を必要とする人と看護	膀胱留置カテ - テル法 / 在宅褥瘡管理	E . 膀胱留置カテ - テル法 a)対象者 b)合併症の予防 c)指導と安全管理 d)医師との連携 F . 在宅褥瘡管理 a)褥瘡発生のリスクアセスメント b)褥瘡発生予防 c)褥瘡の分類 d)指導と安全管理 e)医師との連携
11	在宅療養者の状態別看護	寝たきり者と痴呆性高齢者の援助	目標 2 - 3 在宅療養者の状態別看護 A . 寝たきり者 a)寝たきり状態のアセスメント b)合併症の予防 c)生活意欲の向上 d)社会資源の活用 B . 痴呆性高齢者 a)痴呆のアセスメント b)コミュニケーション
12	在宅療養者の状態別看護	難病による療養者の援助	c)問題行動 d)社会資源の活用 C . 難病による療養者 a)特定疾患 b)難病対策要綱 c)急性増悪の早期発見と対応 d)自己決定への支援 e)遺族への看護
13	在宅療養者の状態別看護	終末を迎える療養者の援助	D . タ - ミナル期の療養者 a)症状コントロール b)家族支援 c)チ - ム医療 d)自己決定への支援 e)遺族への看護
14	在宅療養者の状態別看護	生活自立困難者の援助	E . 生活自立困難者 a)自立度のアセスメント b)人間関係の調整 c)社会資源の活用
15	まとめ と 評価		
テキスト		「在宅看護論」杉本正子 眞船拓子編集（廣川書店）	
参考書		「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「国民の福祉の動向」（厚生統計協会）	

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 論 特 講	担 当 教 員	吉 岡 敏 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	学 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>*在宅看護、ケア、介護に関する今日的话题を取りあげ、一緒に考え学んでいきたいと思ひます。特に学生自身の関心のある事柄について積極的に取りあげたいと考えています。</p> <p>例えば、「ホスピス」「高齢者虐待」等</p>	
1	「在宅終末ケア、緩和ケア、ホスピス」を中心に	緩和ケア・ホスピスを中心に	
2		〃	
3	～ 回	〃	
4	「高齢者虐待を中心に」	高齢者虐待を中心に	
5		〃	
6	～ 回	〃	
7	まとめ・レポート		
		<p>*課題についてのレポートを作成します。</p>	
	テキスト	「在宅看護論」杉本正子 眞船拓子編集（廣川書店）	
	参考書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 「国民の福祉の動向」(厚生統計協会)	

授 業 科 目 名	成人看護学の基礎	担 当 教 員	矢 嶋 和 江
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4	成人看護の意義 成人期とは 成人各期の特徴	成人看護の目的・位置づけを知り、その意義を学ぶ ライフサイクルからみた成人期 成長・発達概念と成人期について学ぶ。 成人期にある人を理解するために発達理論について理解する。 青年期、壮年期、向老期の身体的、精神的、社会的特徴について各視点から考え理解する。 GW：小グループに分かれて学習・発表	【成人看護学】 目標 1 - 1 1. 成人の特徴 A 生涯発達の特徴 a) 身体の発達と衰退 b) 心理社会的発達 c) 性的自己の発達 B 現代の生活状況 a) 家族形態と機能 b) 職業の種類と就業環境 c) 生活習慣・生活様式 d) 人生や健康にかかわる意識
7 8	健康を保つメカニズム	保健動向と保健問題 人口の動向、疾病状況、死亡動向などの健康指標から成人の特徴及び生活の中に見る成人の健康問題を総括的に理解する。	目標 1 - 2 成人に特有な健康問題の特徴 A 生活習慣に関連する健康障害 a) 生活習慣病の形成と予後 b) 生活習慣病の発生状況 B 職業に関連する健康障害 a) 就業条件・環境と病気 b) 職業病の発生状況 C 生活ストレスに関連する健康障害 a) ストレスの種類と生理的適応 b) 生活ストレスと健康障害 c) ストレス関連疾患の発生状況
9 12	パート： (成人保健)	成人期の健康問題 成人期にある人が健康を障害される事によって受ける問題とその反応への影響要因について学び、健康を障害された成人期にある人を理解する指針とする。 1 生活習慣病の予防	目標 3 - 1 健康の保持増進、疾病の予防に向けた看護 A 生活習慣病の予防 a) 適正な日常生活習慣の指針

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
13 14 15	<p>健康を保つメカニズム</p> <p>パート：</p> <p>(成人看護の方法)</p> <p>まとめ</p>	<p>2 勤労者の生活と健康問題 3 女性の生活と健康問題 4 成人保健と性 5 成人期の発達の、状況的危機とその対処機制</p> <p>慢性疾患や障害を持って生活する人々は、自己管理や新たな生活技術を身につけ自立性を回復してゆく必要がある。成人期は医学の発達と共に平均寿命の伸びなどから成人看護に関連した多くの課題が存在し、基本的な看護援助に加え、看護機能の活動領域、活動形態は拡大している。ここでは継続看護と社会資源の活用などについても概説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患患者の看護方法では、予防や自己管理の重要性に鑑み健康に対する信念、価値観を反映する保健医療行動の理論について学ぶ。 ・疾病の自己管理とその関連要因 <ul style="list-style-type: none"> 自己管理の目的と効果 自己管理行動と影響を及ぼす要因 ・慢性疾患患者の課題と看護方法 <ul style="list-style-type: none"> 自己管理方法の学習への援助 自尊心の保持と看護方法 職場を含めたソーシャルサポート体制 家族の役割と家族への援助 	<p>b) 定期健康診断システムと受診者 B 職業性疾患の予防 a) 適切な作業環境と労働条件 b) 職業病のマネジメントと対処 C ストレスの予防と緩和 a) ストレス状況と要因のマネジメント b) ストレスの緩和、解決方法の指導</p> <p>目標 2 - 1 成人の特性や能力に応じたアプローチ A 自立した存在 a)セルフケア能力 b)自己制御と自己効力感 B 独自の信念や行動パターンを持つ存在 a) コンプライアンスの促進因子 b) ストレスコピング c) 成人教育の原理</p> <p>C 家庭・職場で責任ある役割を担う存在 a) 役割葛藤、役割交代</p>
	テキスト	「成人看護概論・成人保健」(メヂカルフレンド社)	
	参考書	<p>「タバコ副流煙の恐怖」 宮本順伯著 (中央公論事業出版社)</p> <p>「癒す心・治る力」 アンドルー・ワイル著 (角川書店)</p> <p>「健康と文明の人類史」 マーク・N・コーエン著 (人文書院)</p> <p>「エイズを知る」 エイズ&ソサイエティ研究会 (角川書店)</p> <p>「病気と治療の文化人類学」 波平恵美子 (海鳴社)</p> <p style="text-align: center;">その他適宜</p>	

授業科目名	急性期の成人看護学	担当教員	北林 司
対象学生	2 学年	学期	通 年
単位 (コマ数)	3 単位 (45 コマ)	必修	講義室
回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
2	【前期】 周手術期の看護	周手術期看護の目的を理解する。 手術療法を受ける患者を理解する。 インフォームド・コンセントの概念を理解する。	目標 3 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 -2 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 B. 手術療法時の看護 a) 術後合併症のリスクとアセスメント b) 合併症の予防処置と指導 c) 不安のアセスメントと援助 d) 麻酔導入と体位 e) 体温管理 f) 褥創予防 g) 感染予防 h) 事故防止 i) 疼痛・苦痛の緩和 j) 術後合併症の予防 k) 排便法 l) ドレナージと薬の管理 m) 術後の機能障害と生活制限への援助
3 ~ 4	手術前の準備と看護 麻酔と看護	手術を受ける対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 入院から手術までの一連の検査・処置および看護を理解する。 各種麻酔の方法と適応を理解する。 麻酔を受ける対象への看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -1. 呼吸機能障害を持つ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 胸部運動の視診法 b) 呼吸音の聴取法 c) 胸水観察法 d) 呼吸器症状、喀痰、肺機能検査、動脈血ガス分析値の正常性 e) 換気障害、ガス交換障害の程度・分類・原因 f) 心身・日常生活への影響 B. 主な看護 a) 気管支鏡・造影検査時の援助 b) 胸腔穿刺検査時の援助 c) 肺切除術の看護 d) 胸腔鏡下手術の合併症予防 e) 抗アレルギー薬、気管支拡張薬、副腎皮質ステロイド薬の服薬指導 f) 吸入療法、胸腔ドレナージ時の管理 g) 呼吸困難時の安楽な体位 h) 喀痰困難の肺理学療法 i) 喘息発作時の対応と予防指導 j) 慢性呼吸不全の呼吸療法と生活指導 必修問題 . 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 d) 喀痰、血痰、咯血 f) 呼吸困難
5 ~ 6	手術室における看護	手術室看護師の役割を理解する。 手術室の構造と設備を理解する。 手術と看護の実際を理解する。 回復室における看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -2. 循環機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 浮腫・つっ血の観察法 b) 心電図の測定 (電極の装着) c) 身体所見、自律神経反射、心電図所見の正常性 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への影響 B. 主な看護 a) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助 b) 経皮的冠動脈形成術の看護 c) ペースメーカー装着時の生活指導 d) 開心術の看護 e) 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導 f) 抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導 g) 血圧コントロールの生活指導 h) 虚血性心疾患の生活指導 i) 慢性心不全の看護 必修問題 . 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 e) チアノーゼ g) 胸痛 h) 不整脈 j) 血圧上昇、低下 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b) 虚血性心疾患 c) 高血圧症
7 ~ 8	模擬手術(演習)	手術に用いられる器材の名称と用途を理解する。 手洗いとガウンテクニックを理解する。	
9	手術後の合併症と回復への援助	手術侵襲が生体に及ぼす影響を理解する。 術後に起こりうる合併症を理解する。 手術後の看護の実際を理解する。 手術を受ける患者と家族への看護を理解する。 術後回復期における看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -2. 循環機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 浮腫・つっ血の観察法 b) 心電図の測定 (電極の装着) c) 身体所見、自律神経反射、心電図所見の正常性 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への影響 B. 主な看護 a) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助 b) 経皮的冠動脈形成術の看護 c) ペースメーカー装着時の生活指導 d) 開心術の看護 e) 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導 f) 抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導 g) 血圧コントロールの生活指導 h) 虚血性心疾患の生活指導 i) 慢性心不全の看護 必修問題 . 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 e) チアノーゼ g) 胸痛 h) 不整脈 j) 血圧上昇、低下 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b) 虚血性心疾患 c) 高血圧症
10 ~ 16	呼吸機能障害を持つ成人の看護	呼吸器症状を理解する。 呼吸機能障害と日常生活を理解する。 機能障害の把握と看護を理解する。 呼吸音の聴取法を理解する。 低圧持続吸引器の取り扱いを理解する。 呼吸機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 肺理学療法を理解する。 呼吸機能障害のある患者の看護を理解する。 気管支喘息患者の看護を理解する。 肺気腫患者の看護を理解する。 肺癌患者の看護を理解する。 喉頭癌患者の看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -2. 循環機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a) 浮腫・つっ血の観察法 b) 心電図の測定 (電極の装着) c) 身体所見、自律神経反射、心電図所見の正常性 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への影響 B. 主な看護 a) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査時の援助 b) 経皮的冠動脈形成術の看護 c) ペースメーカー装着時の生活指導 d) 開心術の看護 e) 降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導 f) 抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導 g) 血圧コントロールの生活指導 h) 虚血性心疾患の生活指導 i) 慢性心不全の看護 必修問題 . 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 e) チアノーゼ g) 胸痛 h) 不整脈 j) 血圧上昇、低下 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b) 虚血性心疾患 c) 高血圧症
17 ~ 23	循環機能障害をもつ成人の看護	循環器の症状を理解する。 循環機能障害と日常生活を理解する。 循環機能障害の把握と看護を理解する。 心電図の測定法を理解する。 心電図の以上を理解する。 循環機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 経皮的冠動脈形成術を理解する。 循環器疾患患者の薬物療法を理解する。 循環機能障害のある患者の看護を理解する。 心筋梗塞患者の看護を理解する。 心不全患者の看護を理解する。 ペースメーカーと装着患者の看護を理解する。 真性大動脈瘤患者の看護を理解する。 大動脈解離患者の看護を理解する。 下肢静脈瘤患者の看護を理解する。	目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 3. 栄養・代謝障害をもつ患者への看護 A. 咀嚼・嚥下障害の観察とアセスメント a) 歯、舌、口腔、咽頭・喉頭の観察 b) 嚥下テスト c) 咀嚼・嚥下障害の原因と程度 d) 心身・日常生活への影響 B. 咀嚼・嚥下障害の主な看護 a) IVH の適応と管理 b) 舌切除後の生活指導 c) 喉頭・咽頭切除後の生活指導 d) 食道再建術の合併症予防と生活指導 e) 咀嚼・嚥下訓練 f) 嚥下障害部位に応じた摂食の援助 g) 経管・経腸栄養法の管理と指導 D. 消化・吸収障害の観察とアセスメント

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
24 ~ 30	消化・吸収機能障害をもつ成人の看護	<p>消化器の症状を理解する。 咀嚼と嚥下を理解する。 高力口リー輸液療法を理解する。 腹部の観察法を理解する。 消化・吸収機能と日常生活を理解する。 消化・吸収機能障害の把握と看護を理解する。 消化・吸収機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 胃切除術を理解する。 腹会陰式直腸切除術を理解する。 直腸低位前方切除術を理解する。 肝切除術を理解する。 PTCDの目的と管理を理解する。 排便機能障害の観察とアセスメントを理解する。 排便機能障害への主な看護を理解する。 人工肛門と管理方法を理解する。 イレウス管の管理を理解する。 消化・吸収機能障害をもつ患者の看護を理解する。 食道がん患者の看護を理解する。 胃癌患者の看護を理解する。 消化性潰瘍患者の看護を理解する。 21 急性・慢性膵炎患者の看護を理解する。 22 大腸癌患者の看護を理解する。</p> <p>栄養代謝機能障害の症状を理解する。 栄養代謝機能障害と日常生活を理解する。 栄養代謝機能障害の把握と看護を理解する。 栄養代謝機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 インターフェロン療法と看護を理解する。 食道静脈瘤硬化療法と看護を理解する。 肝動脈塞栓術と看護を理解する。 インスリン療法と運動療法を理解する。 肥満度、摂取・消費エネルギーの算出を理解する。 血糖、尿糖の測定方法を理解する。 栄養代謝機能障害をもつ患者の看護を理解する。 急性肝炎患者の看護を理解する。 慢性肝炎患者の看護を理解する。 肝硬変患者の看護を理解する。 胆石症患者の看護を理解する。 高脂血症患者の看護を理解する。</p>	<p>a) 腹部の観察法 b) 身体所見、排泄物、血液検査の正常性 c) 肥満度の算出 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への影響 目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 -9 排泄機能障害を持つ患者の看護 C. 排便機能障害の観察とアセスメント a) 排便のパターン・動作・行動、便性状の観察 b) 排便状態、便正常の正常性 c) 機能障害の程度と原因 d) 心身・日常生活への影響とコントロール D. 排便機能障害への主な看護 a) 大腸ファイバースコープ、直腸診時の援助 b) 人工肛門造設術後の合併症予防と生活指導 c) 低位前方切除術後の合併症予防と生活指導 d) 脳卒中による排便障害への対応 e) 脊髄損傷による排便障害への対応 f) イレウスの予防と改善 目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 E. 消化・吸収障害の主な看護 a) IVHの適応と管理 b) 消化管内視鏡・造影検査時の援助 c) 胃切除術の合併症予防と生活指導 d) 腸切除術の合併症予防と生活指導 e) 胆嚢摘出術の合併症予防 f) 胆汁瘻の管理と指導 g) 胃・十二指腸潰瘍の生活指導 h) 膀胱炎の生活指導 i) 腹痛、嘔吐、吐血、下血、下痢の看護 必修問題 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 2. 病態と看護 A. 症状と看護 j) 腹痛 k) 嘔吐 l) 下痢 m) 便秘 目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 3. 栄養・代謝障害をもつ患者への看護 F. 肝機能障害の観察とアセスメント a) 肝肥大の観察 b) 黄疸・腹水の観察法 c) 意識レベル・内容の観察法 d) 身体所見、血液検査の正常性 e) 障害の原因と程度 f) 心身・日常生活への影響とコントロール G. 肝機能障害の主な看護 a) 肝生検時の援助 b) インターフェロン療法時の生活指導 c) 食道静脈瘤硬化療法の合併症予防 d) 肝切除術の合併症予防と生活指導 e) 肝動脈塞栓術の合併症予防と生活指導 f) 食道静脈瘤の破裂予防と破裂時の対応 g) 肝性脳症の予防と生活指導 h) 肝庇護の生活指導 i) 浮腫・腹水の生活指導 j) 黄疸の生活指導 H. 糖代謝障害の観察とアセスメント a) 血糖、尿糖の測定法 b) 肥満度、摂取・消費エネルギーの算出 c) 身体所見、血液・尿検査、神経学的所見の正常性 d) 障害の原因と程度 e) 心身・日常生活への援助 I. 糖代謝障害の主な看護 a) インスリン療法、経口糖尿病薬指導 b) インスリン自己注射の指導 c) 糖尿病の食事療法・運動療法の指導 d) 糖尿病の合併症予防の生活指導 J. 脂質・尿酸代謝障害の観察とアセスメント a) 身体所見・血液所見、食生活の正常性 b) 障害の原因と程度 c) 心身・日常生活への影響 K. 脂質・尿酸代謝障害の主な看護 a) 高脂血症の生活指導 b) 高尿酸血症の生活指導 必修問題 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 3. 主要疾患と看護 B. 感染症 d) ウイルス性肝炎 A. 生活習慣病 e) 糖尿病 2. 病態と看護 A. 症状と看護 c) 黄疸</p>
1 ~ 15	【後期】 栄養代謝機能障害をもつ成人の看護		
	テキスト	「新版看護学全書別巻1,2 臨床外科看護学1,2」(メヂカルフレンド) 「新体系看護学22 成人看護学」(メヂカルフレンド) 「新体系看護学23 成人看護学」(メヂカルフレンド)	
	参考書	「事例で学ぶ成人看護学1」(メヂカルフレンド) 「事例で学ぶ成人看護学2」(メヂカルフレンド)	

授業科目名	慢性期の成人看護学	担当教員	板垣喜代子
対象学生	2 学年	学期	通 年
単位 (コマ数)	3 単位 (45 コマ)	必修	講義室
回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
1 ~ 3	慢性的な経過をたどる健康障害への看護の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患及び慢性期の健康障害の特徴を学び、慢性期にある人の心身・生活・家族への影響を理解する。 セルフケアの概念及びセルフケアに影響する要因を学び、セルフケア能力のアセスメント、疾患需要・症状のコントロールへの援助、健康教育などの看護の特徴を学ぶ。 特定疾患治療研究対象疾患(難病)患者の抱える問題、看護の特徴、社会資源について理解する。 	<p>目標 3-1 疾病の保持・増進、疾病の予防に向けた看護</p> <p>A. 生活習慣病の予防</p> <p>a) 適正な日常生活習慣の指標 b) 定期的健康診断システムと受診者</p> <p>目標 3-4 慢性的な経過をたどる健康障害への看護</p> <p>A. セルフコントロールへの援助</p> <p>a) 心身のモニタリング b) 受診・治療の継続 c) 生活習慣・ライフサイクルの変更 d) 自己効力感強化の方法 e) 自己概念の修正</p> <p>B. 社会的支援の獲得</p> <p>a) 家族・患者会による支援 b) 特定疾患治療研究事業の適応と保護</p>
4 ~ 11	<p>【各機能障害を持つ患者の看護】</p> <p>1) 内部環境調節障害をもつ成人の看護</p>	<p>体温調節機能障害と日常生活を理解する。</p> <p>体温調節機能障害の把握と看護を理解する</p> <p>体温調節機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する</p> <p>甲状腺機能亢進症患者の看護を理解する。</p> <p>主な下垂体疾患とその看護について理解する。</p> <p>主な副腎疾患とその看護について理解する。</p> <p>腎障害患者の検査・治療に伴う看護を理解する。</p> <p>透析療法患者の看護を理解する。</p> <p>腎移植患者の看護を理解する。</p>	<p>目標 4-4 内部環境調節障害をもつ患者への看護</p> <p>A. 内分泌機能の観察とアセスメント</p> <p>a) 甲状腺触診法 b) 身体・精神・血液所見、ホルモン定量、代謝率の正常性 c) 心身・日常生活への影響</p> <p>B. 内分泌機能障害の看護</p> <p>a) 甲状腺切除術後の生活指導 b) 脳下垂体切除術後の生活指導 c) 副腎摘出術時の生活指導 d) ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 e) ホルモンバランス失調状態の生活指導</p> <p>C. 体温調節機能の観察とアセスメント</p> <p>a) 浮腫・脱水の観察法 b) 水分出納、身体所見、血液検査の正常性 c) 体液不均衡の程度と原因、腎不全の病期 d) 心身・日常生活への影響</p> <p>D. 体液不均衡の看護</p> <p>a) 腎生検時の援助 b) 腎臓移植術後の看護 c) 透析療法の適応基準と選択 d) 血液透析・腹膜透析の管理 e) シャントの管理と患者指導 f) 維持透析の生活指導 g) 慢性腎不全の病期に応じた生活指導</p> <p>E. 体温調節機能の観察とアセスメント</p> <p>a) 発熱・熱型と随伴症状 b) 体温異常の原因と程度 c) 心身・日常生活への影響</p> <p>F. 体温調節機能障害への看護</p> <p>a) 熱中症、過高熱への対応 b) 低体温への対応</p>
12 ~ 19	2) 身体防御機能障害をもつ成人の看護	<p>身体防御機能障害と日常生活を理解する。</p> <p>身体防御機能障害の把握と看護を理解する。</p> <p>身体防御機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する</p> <p>急性・慢性白血病患者の看護を理解する</p> <p>悪性リンパ腫患者の看護を理解する。</p> <p>造血幹細胞移植を受ける患者の看護を理解する。</p>	<p>目標 4-9 排泄機能障害をもつ患者の看護</p> <p>A. 排尿機能障害の観察とアセスメント</p> <p>a) 排尿パターン・動作・行動、尿性状の観察 b) 排尿状態、一般尿検査、尿流動態検査の正常性 c) 蓄尿・尿排泄障害の程度と原因 d) 心身・日常生活への影響とコントロール</p> <p>【必修問題】</p> <p>-2-A. 症状と看護</p> <p>a) 発熱 b) 脱水 n) 乏尿、無尿、頻尿 o) 浮腫</p> <p>目標 4-5 身体防御機能の障害をもつ患者の看護</p> <p>A. 免疫機能の観察とアセスメント</p> <p>a) 炎症反応の観察 b) 身体所見・血液検査の正常性 c) 機能低下の原因と程度 d) 心身・日常生活への影響</p> <p>B. 免疫機能低下の看護</p>

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
		<p>膠原病患者の看護・生活指導方法を理解する。 アレルギー疾患患者の生活指導を理解する。 MRSA 感染症患者の看護を理解する HIV 感染症/AIDS 患者の看護を理解する。 褥瘡のある患者の看護を理解する。</p>	<p>a)骨髄穿刺時の援助 b)骨髄移植、幹細胞移植時の看護 c)移植時の倫理的配慮 d)膠原病の生活指導 e)アレルギー疾患の生活指導 f)HIV 感染症/AIDS の生活指導 C. 感染症の観察とアセスメント a)熱型、身体所見、分泌・排泄物、血液所見の正常性 b)感染の部位、原因、程度 c)心身・日常生活への影響 D. 感染症の看護 a)スタンダードプリコーション b)感染経路に対応した感染予防 c)職業上の感染予防 【必修問題】 -2-A. 症状と看護 p)貧血 -3-B. 感染症 a)インフルエンザ b)多剤耐性ブドウ球菌感染症 c)腸管出血性大腸炎 e)結核 f)HIV 感染症/AIDS</p>
20 ～ 27	3)脳・神経機能障害をもつ成人の看護	<p>脳・神経機能障害と日常生活を理解する。 脳・神経機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する 意識障害のある患者の要因・アセスメント・看護を理解する。 運動麻痺のある患者の要因・アセスメント・看護を理解する。 言語障害患者の要因・アセスメント・看護を理解する。 排尿障害の要因・アセスメント・看護を理解する。 脳梗塞患者の看護を理解する クモ膜下出血患者の看護を理解する。 脊髄損傷患者の看護を理解する。 パーキンソン病患者の看護を理解する。</p>	<p>目標 4-7 認知機能・コミュニケーション障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a)意識障害の診察法 b)言語の表出と理解の観察 c)環境認知の観察 d)言語・行動・神経学的検査の正常性 e)意識障害の程度と原因、日常生活への影響 f)注意・記憶障害の原因と程度、心身・日常生活への影響 g)空間認知障害の原因と程度、心身・日常生活への影響 h)言語機能障害の原因と程度、心身・日常生活への影響 B. おもな看護 a)髄液検査時の援助 b)脳血管撮影時の援助 b)脳の高血腫・腫瘍・動脈瘤摘出術の看護 c)遅延性意識障害の看護 d)注意・記憶障害に対応した生活指導 e)空間失認の生活訓練・環境調整 f)失語・構音障害の生活訓練と援助 目標 4-9 排泄機能障害を持つ患者の看護 B. 排泄機能障害へのおもな看護 a)脳卒中による排尿障害への訓練と援助 脊髄損傷による排尿障害への訓練と援助 b)腹圧性尿失禁の運動訓練と生活指導 目標 4-8-B k) パーキンソン症候群への対応と生活指導 p)ドーパミン補充療法の服薬指導 【必修問題】 -3-A. 生活習慣病 d)脳血管疾患</p>
28 ～ 31	4)感覚機能障害をもつ成人の看護	<p>視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害と日常生活を理解する。 視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害の把握と看護を理解する。 視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 視覚機能障害・聴覚障害・嗅覚障害・味覚障害・触覚障害をもつ患者の看護を理解する。</p>	<p>目標 4-6 感覚機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a)視力、視野、眼球運動の検査法 b)聴力検査法 c)平衡感覚検査法 d)触覚・味覚・嗅覚の検査法 e)検査所見の正常性 f)各感覚機能障害の原因と程度 g)心身・日常生活への影響 B. おもな看護 a)光凝固・硝子体手術の看護 b)角膜移植術の看護 c)鼓室形成術の看護 d)副鼻腔手術の看護 e)視力・視野障害の看護 f)聴覚障害の看護 g)平衡感覚障害の事故防止 h)神経障害の生活指導 i)味覚・嗅覚障害の生活指導 j)点眼薬投与時の事故防止 【必修問題】 -3-C. 外傷 b)創傷の治療過程</p>

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
32 ～ 36	5)運動機能障害をもつ成人の看護	<p>運動機能障害と日常生活を理解する。 運動機能障害の把握と看護を理解する。 運動機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 ギブス固定・牽引時の生活の援助方法を理解する。 下肢切断・離断術後の看護を理解する。 人工股関節全置換術時の看護を理解する。</p>	<p>目標 4-8 運動機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a)四肢長の測定法 b)関節可動域の測定法 c)筋周径の測定法、徒手筋力検査法 d)日常生活動作の観察 e)四肢の形状、運動、姿勢、歩行の正常性 f)機能障害の程度と原因 g)心身・日常生活への影響 B. おもな看護 a)ミエログラフィー時の看護 b)効果的な固定法・牽引法と生活の援助 c)ギブス固定・各種牽引療法時の合併症予防 d)関節可動域訓練の適応と原則 e)筋力増強訓練の適応と原則 f)骨折の観血的整復術の看護 g)人工骨頭置換術の看護 h)四肢切断・再接着術の看護 i)脊柱手術後の生活の援助 j)変形性関節症の生活指導 l)関節・脊柱の疼痛の緩和 m)片麻痺における日常生活動作<ADL>の訓練と介助方法 n)脊髄損傷レベルに対応した日常生活動作の訓練と介助方法 o)免荷・歩行補助具・自助具の適応 q)退院スタイルの決定要因と調整 r)家族の介護指導と介護負担 【必修問題】 -3-C. 外傷 a)骨折</p>
37 ～ 40	6)性・生殖機能障害をもつ成人の看護	<p>性・生殖機能障害と日常生活を理解する。 性・生殖機能障害の把握と看護を理解する。 * 男性に現れる症状と看護 * 女性に現れる症状と看護 性・生殖機能障害の検査・治療に伴う看護を理解する。 乳房切除術時の看護を理解する。 子宮摘出術時の看護を理解する。</p>	<p>目標 4-10 性機能障害をもつ患者の看護 A. 観察とアセスメント a)生殖器、ホルモン分泌、性行動の正常性 b)性行動・性機能障害の原因と程度 c)心身・性生活・日常生活への影響 B. おもな看護 a)内診、性機能検査時の看護 b)子宮摘出術・乳房切除術時の精神的支援と性生活指導 c)精巣<睾丸>・前立腺摘出術時の精神的支援と性生活指導 d)勃起障害に対する薬物療法時の看護 e)脳卒中患者の性生活指導 f)心筋梗塞患者の性生活指導 g)脊髄損傷患者の性生活指導</p>
41 ～ 45	<p>【がん患者の看護】 1)がんの特殊性とがん患者の理解 2)がん治療を受ける患者が持つ問題と看護 3)がんと共に生きる 4)終末期にある患者の持つ問題と看護 5)終末期における家族への援助</p>	<p>成人期のがん疾患の動向と予防・発見システム、がん疾患が及ぼす身体的、心理的社会的影響と看護の特徴を学ぶ。 化学療法、放射線療法などの治療、リハビリテーションを受ける患者の看護を学ぶ。 「告知の問題」、がんと共生のプロセス、その援助、家族が抱える問題、患者家族を支えるためのソーシャルサポートなどについて学ぶ。 終末期の身体的苦痛とその援助、精神的・社会的苦痛とその援助について学ぶ。 終末期にある患者の家族ニーズ、死別の受容プロセスなどを学び、家族への支援システムを理解する。 * 事例学習、グループワークなど</p>	<p>目標 3-5 終末期の看護 A. 緩和ケア a)苦痛のアセスメント b)疼痛コントロール c)QOLの保障 d)悲嘆へのケア 【必修問題】 -3-A. 生活習慣病 a)がん</p>
テキスト	<p>「新体系看護学 23 成人看護学」 (メジカルフレンド社) 「新体系看護学 24 成人看護学」 (メジカルフレンド社) 「新体系看護学 25 成人看護学」 (メジカルフレンド社)</p>		
参考書			

授 業 科 目 名	成人看護学特講	担 当 教 員	矢 嶋 和 江
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	災害概論	災害と災害管理 災害に関する基礎的知識 災害管理とその様相 災害による援助ニーズの経時的变化 D I G (災害時の避難シミュレーション)	【基礎看護学】 目標2-3診療に伴う技術 E.災害看護 a)トリアージ
2		多死傷者の管理について	
3		トリアージとは レスキュー(救出)とタッキング(負傷者分類)の原則 どこでトリアージするのか 机上シミュレーション	
4	災害看護とは	災害と看護職の役割 災害看護とは	
5	病院施設の災害管理	災害時看護の役割と責任 施設の災害被害軽減対策 災害対応マニュアルと訓練 備蓄について 入院患者管理 多死傷受入れの為の準備 看護職員管理と医療ボランティアの配置	
6	災害時の保健問題と保健計画	災害時被災者の看護問題 被災者に起こりえる問題、要求について 保健問題の初期計画と保健プログラム 避難センターにおける保健活動	
7	災害のもたらす心理的衝撃とその対策	被災者と援助者のための心のケア 被災者はどのようにして災害から立ち直るか 悲嘆の過程 心理的介入の原則	
8	まとめ	救援者のストレス対策	
テキスト		資料配布	
参考書		「看護師・介護士のための災害救護ハンドブック」 「災害看護」 太田宗夫・高橋章子著 (メデイカ出版) 「災害医療ハンドブック」 国際災害研究会編 (医学書院) 「国際災害看護マニュアル」 国際看護交流協会災害看護研修運営委員会 (真興交易) その他	

授 業 科 目 名	老年看護学の基礎	担 当 教 員	千 田 サ ダ 子
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2	1. 老年期の理解	A ライフサイクルと老年期 B 人口学的指標から老年期の理解 C 健康指標からの老年期の理解 D 生活の視点からの老年期の理解	目標 1-1 A ライフサイクルと老年期 a) 老年期の定義 b) 老年期の位置づけ c) 加齢と老化 B 人口学的指標から老年期の理解 a) 高齢者人口の推移 b) 前・後期高齢者人口の比較 c) 性差 d) 地域格差 C 健康指標からの老年期の理解 a) 病構造と有病率・有訴率 b) 受療行動・受療の動向 c) 要介護老人の出現率と動向 d) 死亡率、死因、死亡場所 D 生活の視点からの老年期の理解 a) 生活の構造 b) 生活のリズムと生活習慣 c) 役割と社会活動・余暇活動 d) 家族・世帯構成 e) 住宅・環境 f) 就労・雇用 g) 収入・生計
3 4 5	2. 老年期を生きる人々の特徴	A 老年期の発達と成熟 B 高齢者の多様性	目標 1-2 A 老年期の発達と成熟 a) 老年期における発達と成熟の意味 b) 老年期の発達課題 c) 人格と尊厳 d) 喪失体験 e) 高齢期のセクシュアリティ B 高齢者の多様性 a) 高齢者の人生と経験の意味 b) 高齢者の生活史 c) 価値観の多様性 d) 健康状態の多様性 e) 生活習慣・生活様式の多様性
6 7 8	3. 加齢に伴う変化	A 加齢に伴う変化の特徴 B 身体的機能の変化 C 精神的機能の変化 D 社会的機能の変化	目標 1-3 A 加齢に伴う変化の特徴 a) 回復力の変化 b) 予備力の変化 c) 防衛力の変化 d) 適応力の変化 B 身体的機能の変化 a) 感覚器の機能の変化 b) 筋力・筋肉の弾性の変化 c) 体内水分量の変化 d) 神経伝達速度の変化 e) 免疫力の変化 f) ホメオスタシスの変化 g) 復元反応の変化 C 精神的機能の変化 a) 知的能力の変化 b) 情緒的側面の変化 c) 人格の変化 D 社会的機能の変化 a) 社会的役割の変化

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
9	4 老年期を生きる人々の健康	A 高齢者にとっての健康 B 高齢者の健康の特徴	b) 家庭内役割の変化 c) 経済力の変化 目標 1-4 A 高齢者にとっての健康 a) 老年期の健康の捉え方 b) 生活習慣と健康 c) 生きがいと生活の満足感 B 高齢者の健康の特徴 a) 健康の不安定さ b) 慢性化と複合性 目標 1-5
10	5 高齢者を取りまく社会	A 高齢者と家族	A 高齢者と家族 a) 高齢者と家族のライフサイクル b) 家族構成の変化 c) 家族形態の変遷 d) 高齢者と家族の人間関係 B 高齢者と社会システム a) 高齢者の社会参加 b) 高齢者ソーシャルサポート c) 高齢者サービスシステム 目標 3: 保健医療福祉制度の変革が老年看護に与える影響、看護師の果たす役割の変化についての理解を問う。
11		B 高齢者と社会システム	目標 1-6 A 介護保険制度の理解と高齢者ケア a) 介護保険制度の理念と特徴 b) 仕組みの理解 B 高齢者保険サービス a) サービスの理解と活用方法 b) 介護施設サービス c) 居宅介護サービス C ケアマネジメントとケアプラン a) ケアマネジメントと看護
12	6 介護保険と高齢者看護	A 介護保険制度の理解と高齢者ケア B 高齢者保険サービス C ケアマネジメントとケアプラン	職者のケアマネジャーの役割 b) ケアプランの作成 c) チームケアと連携の方法 目標 1-7 A 長期療養型病床群の特徴と看護 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割 B 老人保健施設の特徴と看護 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割 C 特別養護老人ホームの特徴と看護 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割 D グループホームの特徴 a) 制度・サービスの理解 b) サービスの活用と看護の役割
13			
14	7 高齢者の保健医療福祉施設における看護	A 長期療養型病床群の特徴と看護 B 老人保健施設の特徴と看護 C 特別養護老人ホームの特徴と看護	
15		D グループホームの特徴	
	テキスト	「系統看護学講座 20 老年看護学」中島紀恵子著 (医学書院)	
	参考書		

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
22 23 24 25 26 27 28 29 30	4. 障害・疾病をもつ 高齢者への看護	A 視覚の障害 B 聴覚の障害 C コミュニケーションの障害 D 排泄コントロールの障害 E 日常生活動作<A D L>の障害 F 長期臥床状態・廃用性症候群 G 老人性痴呆・精神障害 H 骨粗鬆症 I 老年期に特徴的な疾患と看護	目標 2-4 A 視覚の障害 a) 視覚障害の程度と生活への影響の評価 b) 住環境の整備 c) 眼鏡の適用と管理 d) 白内障治療時の看護 B 聴覚の障害 a) 聴覚障害の程度と生活への影響の評価 b) 会話の方法 c) 補聴器の適用と管理 C コミュニケーションの障害 a) コミュニケーション障害の原因の把握 b) コミュニケーション障害と生活への影響の評価 c) 他者との交流の促進への看護 D 排泄コントロールの障害 a) 排泄コントロール障害の原因の把握 b) 排泄コントロール障害と生活への影響の評価 c) 排泄コントロールに対する看護 E 日常生活動作<A D L>の障害 a) 日常生活動作<A D L>の評価と看護 (移動・食事・排泄・更衣・入浴) b) 自助具の選択・整備 c) 日常生活動作能力再獲得のための看護 d) 残存機能を引き出す援助方法 F 長期臥床状態・廃用性症候群 a) 長期臥床状態の原因の把握 b) 生活機能障害の程度と残存機能の評価 c) リハビリテーションに向けた看護 d) 合併症の予防 G 老人性痴呆・精神障害 a) 痴呆の種類と評価方法 b) 物忘れと記憶障害 c) 見当識障害 d) 精神症状 e) コミュニケーションの方法 f) 日常生活遂行能力 g) 情緒安定をはかる看護 h) 療法的なアプローチ i) 老年期に多い精神障害 H 骨粗鬆症 a) 骨粗鬆症の程度と生活への影響の評価 b) 転倒・骨折の予防 c) 合併症の予防 I 老年期に特徴的な疾患と看護 a) 老年期に特徴的な疾患 b) 老年期に特徴的な疾患をもつ患者の看護
	テキスト	「系統看護学講座 21 老年看護病態・疾患論」佐々木秀忠 (医学書院) 「よくわかる看護学生のためのコミュニケーション」武政奈保子 (青山社)	
	参考書		

授 業 科 目 名	老年の健康障害と看護	担 当 教 員	山 田 ノ リ 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 2 3 4	1. 治療を受ける高齢者への看護	A 薬物療法 B 手術 C 受療形態に応じた看護	目標 2-5 A 薬物療法 a) 加齢と薬物動態 b) 疾患の重複による多剤投与 c) 副作用をまねきやすい薬物 d) 副作用の徴候の観察・評価 e) 副作用の予防 f) 服薬過誤の予防と看護 g) 薬物管理とリスクマネジメント B 手術 a) 検査・手術に関する説明と了解 b) 術前の指導と術中・術後の管理 c) 早期離床への援助 d) 術後せん妄と看護 e) 合併症の予防 C 受療形態に応じた看護 a) 治療を受ける高齢者の心身の特徴と看護 b) 入院 c) 外来、デイケア
5 6 7 8	2. 高齢者の終末期の看護	A 終末期にある高齢者の看護 B 看取りを終えた家族への看護	目標 2-6 A 終末期にある高齢者の看護 a) 高齢者の死のとらえ方 b) 死の迎え方の意向<リビングウィル>と対応 c) 看取りに対する合意の形成 d) 死の受容への看護 e) 死の徴候の観察・評価 f) 合併症の予防 g) 苦痛の緩和と安楽への看護 h) 臨死期の対応 i) 家族の参加と家族への看護 B 看取りを終えた家族への看護 a) 家族の心理の理解と看護 b) 家族へのグリーフワーク c) 家族の生活の再構築への看護
9 10	3. 在宅高齢者の看護	A 訪問看護	目標 3-3 A 訪問看護 a) 訪問看護の目的と役割 b) 訪問看護の特徴と援助技術

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
11	4. 高齢者を介護する家族への看護	B チームアプローチ	B チームアプローチ a) 他機関・施設との連携サービスの理解 b) 他職種との連携・協働 c) チームケアと看護の役割 d) 家族への支援と協働
12		C 社会資源の活用	C 社会資源の活用 a) フォーマルな資源とその活用 b) インフォーマルな資源とその活用
13		A 介護家族の生活と健康	目標 3-4 A 介護家族の生活と健康 a) 要介護高齢者と家族の理解 b) 介護者の健康と介護力 c) 家族生活への影響
14		B 介護家族への看護	B 介護家族への看護 a) 家族介護状況の把握と分析 b) 家族援助の視点と看護 c) 介護力の評価 d) 介護受容の過程への看護 e) 支援ネットワークづくり
15		C 家族介護の課題	C 家族介護の課題 a) 介護問題の社会的動向 b) 地域支援と市民参加 c) 介護の社会化と看護の役割
	テキスト	「系統看護学講座 21 老年看護病態・疾患論」佐々木秀忠 (医学書院) 「よくわかる看護学生のためのコミュニケーション」武政奈保子 (青山社)	
	参考書		

授 業 科 目 名		老 年 看 護 学 特 講	担 当 教 員	吉 田 年 子	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 ~ 5	事例によるデータ解釈	1 事例の解説、データ解釈のために学習しておくことを説明する 2 事例データのアセスメントを、次回までに自己学習により終了して授業に参加する 1. データの解釈を質問する 2. データのアセスメントを質問する 3. アセスメントの方法を説明する			
6 7	まとめ	事例全体のまとめを行う 不足しているデータは何か質問しながら明らかにする 課題：事例の看護を必要とする問題をすべて列記する その問題には優先順位を付ける			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		小 児 看 護 学 の 基 礎	担 当 教 員	木 内 妙 子	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
		* 講義中に掲示する			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護	担 当 教 員	木 内 妙 子	
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
		* 講義中に掲示する		
	テキスト			
	参考書			

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護	担 当 教 員	木 内 妙 子	
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
		* 講義中に掲示する		
	テキスト			
	参考書			

授 業 科 目 名		小 児 看 護 学 特 講	担 当 教 員	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
		* 講義中に掲示する		
テキスト				
参考書				

授 業 科 目 名	母 性 看 護 の 基 礎	担 当 教 員	高 木 タ カ 子
対 象 学 生	1 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	母性看護学を学ぶにあたって	母性とは 母性看護とは	目標 2-1 母性看護の概念 A. 母性看護の主な概念 a: 母性とは
2	母性看護学の概念 母性の特徴	母性の心理 母性行動と母子関係 母性看護の変遷と諸外国の現状	b: ジェンダー c: 家族の発達・機能 B. 母性看護と倫理 a: 妊産褥婦・胎児および新生児の権利と擁護 b: 自己決定の尊重 c: プライバシーの保護
3	母性看護の沿革と現状	母性看護の現状と動向 母性看護に関する組織と法律 母性看護の場と種類	C. 母性看護と法整備 a: 地域における子育て支援 b: 就労と母性 c: 母体保護法 d: 母子保健法
4			
5			
6			
7			
8	人間の性と生殖	性と生殖の概念 人間の性の特徴 セクシャリティの分化と発達 母子保健と遺伝	目標 2-2 人間の性と生殖 A. ヒトの発生と遺伝的要素 a: 発生のメカニズム b: 染色体・遺伝子 B. 性周期と生殖機能のメカニズム
9		性機能の生理 卵巣の周期性変化 子宮の周期性変化 月経・性ホルモン・ほか	a: 発生のメカニズム b: 受胎のメカニズム C. 性行動 a: 性反応 b: 性感染症 D. 生殖をめぐる倫理 a: 出生前診断 b: 不妊治療 c: 人工妊娠中絶 d: ハイリスク胎児の医療
10	女性のライフステージにおける母性看護	思春期 思春期の特徴 初経準備教育 母性の発達を促す看護	目標 2-3 女性のライフサイクルにおける看護 A. 思春期のある人々への看護 a: 第二性徴 b: 心理的特徴
11		成熟期 結婚に関する指導 家族計画指導	B. 成熟期にある人への看護 a: 家族計画の意義 b: 不妊治療と看護
12		更年期・老年期 更年期・老年期の身体的・精神的特徴	C. 更年期にある人々の看護 a: ホルモンの変化と閉経 b: 骨粗鬆症の予防
13		閉経 自律神経失調症 更年期障害とその予防・保健指導	
14	母性看護の技術	母性の事例を通して看護過程を学ぶ 看護過程・保健指導とは	
15		まとめ	
テキスト		「系統看護学講座 母性看護学 1」 (医学書院)	
参考書			

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護	担 当 教 員	高 木 タ カ 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	正常妊娠	妊娠の定義、妊娠の成立、妊娠の持続期間、胎児の発育及び胎盤の機能について学ぶ。	<p>必修問題 .1.生命活動 B.正常な妊娠・分娩・産褥 a.妊娠の経過 -2.A.胎児期a.形態的発達 目標 2-4 周産期にある人々への看護 A.妊婦の看護 a.妊娠の経過と胎児の発育 b.妊婦の心理 c.妊娠と不快症状 d.妊婦の日常生活とセルフケア e.出産・育児の準備 f.親役割の準備</p> <p>必修問題 .1.生命活動 B.正常な妊娠・分娩・産褥 b.分娩の経過 目標 2-4B.産婦の看護 a 分娩の経過と他事健康状態 b.出産様式 c.産道の緩和 d.産婦と家族の心理</p> <p>必修問題 .1.生命活動 B.正常な妊娠・分娩・産褥 c.産褥の経過 目標 2-4C 産婦の看護 a産褥の経過 b.産褥の心理 c.産褥の日常生活とセルフケア 必修問題 .2.人間の成長と発達 B.新生児期・乳児期 a.発達の原則 b.身体発育 c.運動能力の発達 d.栄養 e.母子関係 目標 2-4D 新生児の感度 a親子関係 b.育児技術</p>
2	妊娠の生理	母体の妊娠による生理的变化、胎児の健康と発育状態の診断について学ぶ。	
3	胎児の発育と生理		
4	妊婦の看護アセスメント		
5	妊婦の看護と保健指導		
6	ハイリスク妊娠	ハイリスク妊娠の看護援助について学ぶ。	
7	正常分娩		
8	産婦の看護		
9	産婦の看護アセスメント		
10			
11	ハイリスク及び異常分娩の看護		
12	産科病棟の管理		
13	正常産褥		
14	産褥の看護アセスメント		
15			
16	試験 産褥・新生児の看護		
17	産褥・新生児の看護	産褥期の身体的・心理・社会的特徴について学ぶ。	
18		母子相互作用について学ぶ。	
19	出生直後の異常新生児	産褥期における健康段階の査定について学ぶ。	
20	妊婦・産婦・産褥の	退院後の生活自立への援助について学ぶ。	
21	援助技術演習	産褥・新生児の健康段階に応じた看護援助を学ぶ。	
22		出生直後の新生児の生理的变化とその援助法を学ぶ	
23	新生児看護に必要な	新生児の生理・身体的特徴について学ぶ。	
24	援助技術	新生児仮死の看護について学ぶ。	
25		妊婦体操について学ぶ。	
26	事例による看護過程	分娩スタイルについて学ぶ	
27	の展開	産褥体操について学ぶ。	
28		乳房のケアについて学ぶ。	
		集団指導・個別指導について学ぶ	
		妊婦健診に必要な援助技術について学ぶ。	
		新生児計測方法	
		新生児の清潔援助方法(沐浴・清拭)	
		授乳指導	
		その他育児技術について学ぶ。	
		母性看護における情報収集と分析	
		看護問題の抽出・計画・実施・評価	
		事例を使つての演習について学ぶ。	
		試験	
	テキスト	「系統看護学講座母性看護学2母性看護学各論2」(医学書院)	
	参考書		

授 業 科 目 名		母性の健康障害と看護	担 当 教 員	高 木 タ カ 子	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	ハイリスク妊娠	ハイリスク妊娠の定義・ハイリスク因子について学ぶ		目標2-5.ハイリスクな状況にある人々への看護 A.妊婦の看護	
2	異常妊娠	妊娠中の母体の全身疾患(妊娠中毒症・妊娠悪阻・妊娠貧血)について学ぶ。		a.流産 b.早産 c.常位胎盤早期剥離 d.前置胎盤 e.妊娠中毒症	
3		妊娠中の偶発性疾患(性器の奇形・子宮筋腫・卵巣腫瘍・子宮の歪異常)について学ぶ。			
4		胎児及び胎児付属物の異常(胎児の異常・卵膜の異常・胎盤の異常・臍帯の異常)について学ぶ。			
4		子宮外妊娠について学ぶ。			
		妊娠期間の異常(流産・早産)について学ぶ。			
		妊娠中の感染症・放射線の影響・公害による疾患について学ぶ			
		胎児の発育異常について学ぶ。			
		胎児の先天性疾患について学ぶ			
5	不妊症	不妊症と高度生殖医療による治療について学ぶ。		不妊治療	
6	異常分娩	異常分娩の原因とその対処方法を学ぶ。		目標 2-5B 産婦及び胎児の看護	
7		(母胎の異常・胎児の異常・付属物の異常・分娩による損傷・異常出血・ショック)について学ぶ。		a.胎児仮死 b.帝王切開術	
8	異常産褥	産褥期に多い疾患・感染症・精神疾患(産褥熱・泌尿器感染・乳房の異常・マタニティブルー)について学ぶ。産科手術後の褥婦の看護		目標 2-5c.褥婦及び新生児の看護	
9		分娩後合併症の褥婦の看護について学ぶ。		a.低出生体重児 b.先天異常、障害を持つ新生児 c/死産	
	異常新生児	新生児仮死・分娩外傷について学ぶ。			
10	女性生殖器疾患	性分化異常・染色体異常の疾患・性感染症・生殖器に発症する悪性腫瘍・良性腫瘍・子宮内膜症・ホルモンの異常による疾患・月経異常について学ぶ。		疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う 6 生命の連続性を作り出す機能の障害 A 生殖機をつかさどる機能の障害 a.思春期における性的成熟の障害 b.加齢による性殖機能や性ホルモンの変化 c.女性生殖器の疾患	
11					
12					
13					
14	試験				
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名		精 神 看 護 学 の 基 礎	担 当 教 員	長 野 勝	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	心の健康	心(精神)の健康とは何かについて考える。心の健康に影響する要因をあげ、精神保健の意義について理解できる。心の健康を捉える概念として、(1)正常と異常、(2)精神と身体、(3)発達論の視点から考える		目標 1-1 精神の健康 A. 精神の構造 a:意識・前意識・無意識 b: イド・自我・超自我 B. 精神の機能と障害 a.意識と意識障害 b.知能と知能障害 c.知覚と知覚障害 d.思考と思考障害 e.感情と感情障害 f.意欲と意欲障害 g.記憶と記憶障害 h.認知と認知障害 C. クライシス a.危機の概念 b.危機介入 c.危機と予防 d.コンサルテーション	
~					
4					
5	心の発達と健康	人のライフサイクル(乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期)における発達課題について概説する。家庭・学校・職場・地域などの環境と人間関係が心の健康・不健康(虐待、家庭内暴力、不登校、校内暴力、テクノストレス、燃え尽き症候群等)に及ぼす影響について学習する		目標 2-1 精神看護の基本概念 A. 生物学的モデル a:脳と精神のつながり b:神経細胞と神経伝達物質 B. 精神分析モデル a:フロイトの発達論 b:転移感情 c:自我の防衛機制 C. 成長発達モデル a:幼児期における発達危機 d:学童期における発達危機 c:思春期・青年期における発達危機 d:壮年期における発達危機 e:老年期における発達危機 D. 看護モデル a:看護モデル d:プロセスレコード c:セルフケア理論	
~					
8					
9	セルフケア理論	オレム、アンダーウッドによるセルフケア理論を用いて精神障害者のセルフケア活動について考える			
~					
11					
12	プロセスレコード	患者 - 看護師関係を理解するための訓練法について概説する。			
~					
14					
15	まとめ				
テキスト		「新体系看護学 33 精神看護学 精神看護概論・精神保健」佐藤壹三(メヂカルフレンド)			
参考書		「アダルトチルドレンと家族」斎藤学(学陽書房) 「驚異の小宇宙・人体 脳と心」養老孟司他(NHK 出版)			

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護	担 当 教 員	長 野 勝
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ~ 5	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について説明する。精神保健法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者 看護者関係、観察のポイント等について説明する。	目標 3-1 精神医療看護の人權・倫理 A. 精神医療看護の変遷 a: 欧米における精神医療の歴史 b: 日本における精神医療の歴史 C: 精神医療における看護師の役割 B. 患者の権利 a: インフォームド・コンセント b: 行動制限 c: 隔離室の使用 C. リスクマネジメント a. 自殺・自殺企図 b. 転倒 c. 誤飲 d. 誤薬 e. 院内感染
6 ~ 8	精神状態・症状別看護援助	精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、看護援助の計画・実施に活かせるよう学習する。	目標 2-2 看護援助技法 A. 症状アセスメント a. 不安 b. 抑うつ c. 幻覚 d. 妄想 e. 強迫 f. せん妄 g. 痴呆 h. 離脱症状 B. 精神状態・問題行動と看護援助方法 a. 不安緊張状態 b. ひきこもり状態 c. 抑うつ状態 d. 躁状態 e. 幻覚妄想状態 f. 意欲減退状態 g. 不眠状態 h. 拒絶・拒否 i. 攻撃的行動 j. 操作・試し行為 k. 強迫行為
9 ~ 11	精神の健康障害と看護援助 ・統合失調症患者の看護 ・感情障害患者の看護	統合失調症の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。統合失調症の精神病理、発症の背景。統合失調症の治療、 統合失調症のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、混迷、自傷行為、攻撃、離院)にある患者に対する援助の方法について説明する。 軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。躁鬱病の精神病理、発症因子躁鬱病の治療、	目標 2-3 精神科治療と看護【必修問題(a.うつ b.統合失調症)】 A. 精神疾患の診断基準 a. 統合失調症 b. 気分障害 c. 神経症および心因反応 d. 人格障害 e. 物質(アルコール、薬物)関連障害 f. ストレス関連障害 g. 器質性精神疾患 h. てんかん. i. 心身症
12 ~ 13	・神経症および心因反応 ・人格障害 ・アルコール・薬物依存症 ・てんかん患者の看護	神経症(ヒステリー、摂食障害、不登校等)心因反応の看護援助について事例を通して概説する。 境界型人格障害、その他の人格障害 アルコール・薬物依存患者の看護、症状精神病・人格障害者の看護等について概説する てんかんのさまざまな発作(大発作、小発作等)に対する看護援助及び日常生活指導について説明する。てんかんの神経学、分類、診断、治療	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
14	・その他の精神疾患患者への看護	・ICU症候群：ICU・CCU等における術後管理の過程でみられる特異な精神障害について	
~		・概説する。・児童。思春期の精神障害：発達障害，学習障害，多動症，知的障害など心理的発達プロセスと発達課題について概説する。・痴呆：症候	
15			
16	リエゾン精神科看護	性の痴呆，脳血管性痴呆，アルツハイマー病，その他の変性疾患による痴呆について概説する。	目標 1-1 精神の健康 D. リエゾン精神看護 a. 身体疾患をもつ患者の精神の健康 b. 患者・家族の精神の健康 c. 看護職者の健康
~		精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者 看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。	
17			
18	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史的変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。	目標 3-2 地域精神保健 A. 精神福祉の法制度 a. 精神保健福祉法の基本的考え方 b. 精神保健福祉法による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. ホムヘルプサ・ビス B. 社会復帰・社会参加 a: 社会復帰施設 b: デイケア c: 小規模作業所 d: グループホーム e: 生活支援センター f: セルフヘルプグループ C. 地域生活支援の技術 a. 生活技能訓練 SST (Social Skill Training) b. 訪問看護 c. ケアマネ - ジメント d. 看護相談面接 D. 生活の場と精神保健 a. 家庭(育児ノイロ - ゼ，介護疲れ，虐待) b. 学校(不登校，いじめ，無気力) c. 職場(パニアウト，自殺，過労死)
~		精神の健康上の問題をもつ人が，地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて概説する。	
19			
20	事例展開	事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開: グループワークと発表により看護診断について学習する。	
~			
30	発表とまとめ		
	テキスト	「新体系看護学 33 精神看護学 精神障害をもつ人の看護」佐藤壹三(メヂカルフレンド社)	
	参考書	「精神障害者のクリニカルケア」川野雅資・長野勝(メヂカルフレンド社) 「精神看護学」田中美恵子(医歯薬出版)	

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護	担 当 教 員	長 野 勝
対 象 学 生	2 学 年	学 生 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	総論 精神の健康障害者への基本的援助姿勢	精神障害者の真のノーマライゼーションの実現がめざされるようになった。精神障害者と社会参加について概説する	目標 3 精神障害者の人権を守り、地域生活を支えていくための基本的援助姿勢
~		患者 看護師関係：患者-看護師関係の特徴 患者-看護師関係の目的，患者-看護師関係を成立させる要因，患者-看護師関係の発展過程について概説する。	
3			
4	ストレスと適応	ストレスは環境(外界)からの刺激により引き起こされる。セリエによるストレス、ストレッサー、適応について学習する。現代社会のさまざまな心の健康問題とストレスに適応していくためのウェルビーイング well-being (心身のよりよい状態) について考える。またストレスコーピング、つまりストレスに対するさまざまなコーピング法 (ストレス対処法) について概説する。ストレスに対するさまざまなコーピング法 (ストレス対処法) について概説する。	目標 2-1 精神看護の基本概念 B.精神分析モデル a:フロイトの発達論 b:転移感情 c:自我の防衛機制
~			
5	精神科治療と看護	精神の健康障害に対する薬物療法を中心とした様々な治療法とその看護援助について概説する。	目標 2-3 精神科治療と看護 B.臨床検査 a.脳波検査 b.知能検査 c.記銘力検査 d.人格検査 C.身体療法 a.薬物療法:抗精神病薬の作用と副作用，抗うつ薬の作用と副作用，抗躁薬の作用と副作用，抗不安薬の作用と副作用，抗てんかん薬の作用と副作用，b.電気けいれん療法 D.精神療法 a.個人精神療法 b.集団精神療法 c.家族精神療法 E.活動療法，リハビリテーション療法 a.作業療法 b.レクリエーション療法 c.芸術療法 F.治療環境 a.病棟環境の整備 b.チ - ム医療
6			
~			
9			
10			
~			
14	まとめ		
15			
	テキスト	・「新体系看護学 33 精神看護学 精神障害をもつ人の看護」佐藤壹三(メヂカルフレンド社)	
	参考書	・「臨床看護医学 第 14 巻」日野原重明(同朋舎出版) ・「坂田三允：心を病む人の看護」(中央法規) ・「老人と語る看護」長野勝(メヂカルフレンド社) ・「こころをつなぐ看護(精神看護学全書)」長野勝(メヂカルフレンド社)	

授 業 科 目 名		精 神 看 護 学 特 講	担 当 教 員	長 野 勝	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 ~ 45	人間関係と心(脳)の働き PTSD	脳と性格の関わりを学び,もう一人の自己を知ることにより,より良い人間関係・患者との関係の在り方を考える。 PTSD(Post Traumatic Stress Disorder:心的外傷後ストレス障害) 関する文献を抄読し、こころのケアについて学習する		目標 1-1 精神の健康 A. 精神の構造 a:意識・前意識・無意識 b: イド・自我・超自我 B. 精神の機能と障害 a. 意識と意識障害 b. 知能と知能障害 c. 知覚と知覚障害 d. 思考と思考障害 e. 感情と感情障害 f. 意欲と意欲障害 g. 記憶と記憶障害 h. 認知と認知障害	
6 ~ 7	看護とストレス	看護の場面の事例より,労働者の危機と看護,危機状況における看護, :Burnout(もえつき)症候群,看護とストレスについて考える		目標 1-1 精神の健康 C. クライシス a. 危機の概念 b. 危機介入 c. 危機と予防 d. コンサルテーション	
テキスト		「新体系看護学 33 精神看護学 精神看護概論・精神保健」佐藤壹三(メヂカルフレンド社)			
参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・「驚異の小宇宙 人体 脳と心 4」谷川俊太郎(NHK出版) ・「老人と語る看護」長野勝(メヂカルフレンド社) ・「カウンセリングを学ぶ」水島恵一(有斐閣選書) ・「心の看護 サンル - ト」長野勝(看護研修センター) 			

授 業 科 目 名		看 護 研 究	担 当 教 員	鹿 村 眞 理 子	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	看護研究の意義	看護研究の目的、看護師としてのアイデンティティの確立			
2	研究のプロセス	研究のプロセス、研究における倫理			
3	文献検索	文献検索の仕方、文献の読み方、文献カードの作成			
4	研究デザイン	概念枠組みと仮説、量的研究と質的研究			
5	研究計画書	研究計画書の書き方			
6	研究計画書	研究計画書の作成			
7	研究の方法	データ収集、集計、分析			
8	論文の構成と書き方	テーマ、はじめに、対象と方法、結果、考察、おわりに			
9	看護研究 について	看護研究 のオリエンテーション			
10	群馬県看護学生研究発表会参加	参加、レポート作成			
~					
12		参加、レポート作成			
13	看護研究 発表会参加				
~					
15					
テキスト		「看護研究 step by step」黒田裕子（学研）			
参考書					

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	担 当 教 員	村 上 隆 夫
対 象 学 生	3 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命倫理学の成立	生命倫理学の成立と素の背景	
2	古代哲学における生命と身体	古代エジプト・ギリシャ・キリスト教における生命観と身体観	
3	近代哲学における生命と身体	デカルトの哲学における生命観と身体観	
4	伝統的社会における死と葬送	前近代社会における死の儀礼	
5	近代社会における死と葬送	近代社会における死の儀礼	
6	疎外される身体と加工される身体	人間の身体の人間学的考察	
7	身体と人格	人格概念の形成と身体と人格の関係	
8	身体は誰のものか	脳死と臓器移植をめぐる倫理的問題	
9	人権と医療	インフォームド・コンセントをめぐる倫理的問題	
10	人間はいつから人間になるのか	妊娠中絶と新生児殺しをめぐる倫理的問題 安楽死と尊厳死をめぐる倫理的問題	
11	人間が人間でなくなるとき	生殖技術をめぐる倫理的問題	
12	子どもは誰のものか	医療関係者と患者との人間関係をめぐる倫理的問題	
13	医療関係者と患者		
14	生命倫理と正義	医療資源の配分をめぐる倫理的問題	
15	動物の生存権	生命倫理学と環境倫理学との関係について	
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名	国 際 保 健 医 療 協 力	担 当 教 員	矢 嶋 和 江
対 象 学 生	3 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ~ 2	国際協力とは	国際協力の考え方の変遷 第二次世界戦争以降の取り組みと開発思想 先進国・開発途上国の区割り 国際援助機関とその役割 開発途上国の援助ニーズにどのように応えてきたか、 各機関の役割、NGOの役割などについて概説する。 日本の国際協力の流れ 日本が受けてきた援助	基礎看護学目標3. 1. 看護の役割と機能を支えるしくみ G : 国際協力 a). 国際交流 b). 国際援助機関への協力
3	看護の国際協力	国際看護の考え方 看護職の国際協力の流れ 第二次世界戦争前・戦争後の活動	
4 ~ 5	開発途上国の健康問題	健康問題の格差 生活と環境 貧困と健康 栄養と感染症 母子保健とジェンダー リプロダクティブヘルスの視点から母子保健の現状を理解する。 伝統的医療・民族としての慣習	
6	国際協力に求められるもの	国際協力のイメージ 求められる能力は何か	
7	協力活動の実践例	青年海外協力隊保健師隊員の活動例(VTR) 途上国の保健問題について、問題の派生する要因、その対策、今後の課題などについて考える。	
8	まとめ		
	テキスト	「国際看護学入門」国際看護研究会編(医学書院)	
	参考書	「世界を翔けたナースたち」JOCV看護職ネットワーク編(青年海外協力協会) 「国際保健医療協力入門」小早川隆敏(国際協力出版会) 「いのち・開発・NGO」デイビット・ワーナー(新評論社) 「もし世界が100人の村だったら」[資料]	

授 業 科 目 名	歯 と 健 康	担 当 教 員	小 林 圭 一
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	総論		
2	口腔・歯牙の構造と機能		《人体の構造と機能》
3	歯の役割 口腔ケアの目的		目標 1.2
4	歯科医療とは		10 栄養摂取の機構-B.咀嚼 a
5	齲蝕		歯・口腔の構造と機能, b 咀嚼
6	齲蝕予防法		の過程 C.嚥下 a 咽頭の構造と
7	歯周疾患		機能, b 食道の構造と機能, c
8	顎関節疾患		嚥下の過程
9	口腔軟組織の疾患		《疾病の成り立ちと回復の促
10	顔面、頸部の疾患		進》
11	予備		目標 3
12	看護における口腔ケア		3 栄養の摂取・吸収・代謝・排
13	〃		泄機能の障害-A.食の障害
14	地域歯科医療		c 咀嚼・嚥下機能の障害
15	予備 (レポート作成)		《社会保障制度と生活者の健
			康》
			目標 3
			4 保健活動-A.地域保健 b 健康日
			本 21
			《在宅看護論》
			目標 2
			1 在宅における生活支援の方法
			と技術-C.清潔 e 口腔ケア
			《成人看護学》
			目標 4
			3 栄養摂取・代謝障害を持つ患
			者への看護-A.咀嚼・嚥下障害の
			観察とアセスメント a 歯、舌、
			口腔・咽頭・喉頭の観察
	テキスト	「看護学全書 成人看護学 14 歯・口腔疾患患者の看護」(メヂカルフレンド社)	
	参考書		

授 業 科 目 名		ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	担 当 教 員	近 藤 照 彦	
対 象 学 生		1 ・ 2 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	ボランティア活動とは	科目説明、履修方法、活動記録、活動範囲、単位認定などについて			
2	活動1	活動1			
2	活動2	活動2			
3	活動3	活動3			
4	講義・実習	災害活動概論と模擬災害実習 担当：矢嶋和江			
5	活動5	活動5			
6	活動6	活動6			
7	活動7	活動7			
8	活動8	活動8			
9	活動9	活動9			
10	活動10	活動10			
11	報告会	成果発表			
テキスト		指定せず			
参考書		大学とボランティア			